

2019年度入学生用

総合情報学部

Faculty of Information Sciences and Arts

諸 注 意

- ・この『履修要覧』には、2019年度入学生に適用される内容を掲載しています。
- ・この『履修要覧』は、卒業時まで使用します。再配付しませんので、大切に使用・保管してください。
- ・講義内容に関しては、「ToyoNet-G」で公開しています。
利用方法については、『ToyoNet-G利用ガイドブック』を参照してください。
- ・記載内容の変更については掲示にてお知らせします。

学籍番号									
氏 名									

I 授業の履修について

II 学科教育課程表および履修方法について

総合情報学科

大学院開講科目履修制度

東京外国語大学との単位互換制度について

III 教職課程について

IV 諸資格について

V 国際交流プログラムについて

VI 国際教育プログラムについて

VII 学籍および各種証明書について

目 次

建学の理念と創立者 井上円了	3
学部長挨拶——総合情報学部長・土田賢省	4
総合情報学部総合情報学科の教育研究上の目的	5
総合情報学部総合情報学科3つのポリシー	5
I 授業の履修について	
1 学修にあたって	8
2 授業	10
3 履修登録	12
4 試験	13
5 成績評価	14
II 学科教育課程表および履修方法について	
1 総合情報学科カリキュラムの特徴	19
2 卒業要件・卒着条件について	21
3 コース分けについて	24
4 履修について	24
5 教育課程表の見方・科目ナンバー	25
6 学科教育課程表	27
7 総合情報学科カリキュラムマップ（2019年度以降、公認心理師科目対応）	36
8 総合情報学科開講科目一覧	38
9 大学院開講科目履修制度について	41
10 東京外国語大学との単位互換制度について	43
III 教職課程について	
1 教育職員免許状取得について	46
2 教育実習	50
3 免許状の申請および教員採用について	51
4 教育職員免許状取得までの流れ（スケジュール）	53
IV 諸資格について	55
V 国際交流プログラムについて	59
1 Toyo Global Leader（TGL）プログラム	60
2 国際教育センター 海外留学・研修プログラム	62
3 総合情報学部独自の海外研修プログラム	65
VI 国際教育プログラムについて	67
1 英語特別教育科目 LEAP プログラム	68
2 ランゲージセンター 課外英語講座	69
3 外国語資格試験座	70
VII 学籍および各種証明書について	
1 学籍（学籍異動に関する手続き）	72
2 各種証明書および実習料一覧	78
3 学則（学籍に関する事項の抜粋）	79

建学の理念と創立者 井上円了

建学の理念

○建学の精神

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

○東洋大学の教育理念

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

○東洋大学の心

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。



創立者 井上円了 博士
画：岡田 三郎助

東洋大学は、明治20（1887）年、哲学者・井上円了が創立した「私立哲学館」によってその歴史が始まりました。円了は幕末の安政5（1858）年、越後国長岡藩西組浦村（現在の新潟県長岡市浦）のお寺の長男として生まれ、明治14年、設立間もない東京大学文学部哲学科にただひとりの1年生として入学しました。勉学を通して「洋の東西を問わず、真理は哲学にあり」と確信します。当時のわが国は欧米文化至上主義の時代で、円了は西洋化に踊らされる日本を憂えていたと思われまふ。ここでいう哲学とは、「万物の原理を探り、その原理を定める学問」であり、それは観念的演繹的な哲学ではなく、事実と実証に基づく哲学であるという点が強調されました。

円了は創立前に「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であります。政治、法律はもとより科学や芸術まで、その根底には哲学がなくてはなりません」と述べています。この考えから明治20年「私立哲学館」という哲学専修の私立学校を創立しました。これが現在の東洋大学の前身にあたります。

円了が教育で目指した哲学は、いわゆる「哲学者」の養成ではなく、思想や精神を錬磨する術（すべ）であり、他に応用する能力も身につけなければならないものであると説いています。

哲学という言葉が初めて使われた明治時代から、哲学の欠如が問われている現在までの125年以上にわたり、東洋大学も激動の歴史を歩みながら、創立者井上円了の教育理念を継承してきました。

哲学館創立以降に、円了は「余資なく、優暇なき者」のために「社会教育」と「開かれた大学」を目指して活動を開始しました。その一つに、学校開設の翌年から『哲学館講義録』を発行して、通学できない者にも勉学の機会を与えました。これは当時としては画期的なことであり、この精神は現在の通信教育部に受け継がれています。

さらに、円了は30代から生涯続けることになる全国巡講を始めています。統計に残っている明治39年から大正7年までの13年間で、全国60市、2198町村において5291回の講演を行い、社会教育に力を入れました。明治の日本に新しい教育の扉を開こうとした円了の情熱がうかがえます。この心を引き継いで現在の東洋大学では「開かれた大学」を目指し、講師派遣事業や公開講座など、地域のみならず全国の人々に生涯学習の場を提供しています。



人生 100 年の礎を大学時代に しっかり築きましょう！

総合情報学部長 土 田 賢 省

新入生の皆さん、東洋大学総合情報学部に御入学おめでとうございます。

総合情報学部は、平成21年4月に東洋大学10番目の、そして完全な文理融合の学部として開設されました。開設時の本学部の目的は、明治時代以来の文系・理系の枠を超えて、社会・経済・環境・スポーツ・心理・文化・芸術などの多様な分野で情報学の新たな教育研究分野の開拓を進め、情報通信技術（ICT）の高度な利活用を先導し、自分自身の哲学を持った「第一級の情報の創り手・使い手」を育成することでした。最近では、このICTにAIがプラスされ、AI自体の占める割合が急激に大きくなっているような変化はありますが、教育目的・教育理念の核は開設時と基本的には変わりなく現在も継承しています。お陰様で、本学部は平成31年4月で満十歳を迎えることができました。平成24年度卒業の第1期生から平成30年度卒業の第7期生まで、皆さんの先輩である多くの卒業生を社会に送り出しています。皆さんの先輩達は、文系と理系を問わず幅広い分野で活躍しております。

今後の大学が直面する社会変化の方向のキーワードとして、「人生100年時代」、「SDGs（持続可能な開発のための目標）」、「Society5.0・第4次産業革命」、「グローバル化」、「地方創生」が挙げられています。これらの問題に対応するために、これからの大学教育では、「文系・理系の区別にとらわれない、新しい教育にも対応した教育」、「分野を越えた専門知や技能を組み合わせた教育」、「個々人の「強み」や卓越した才能を最大限に伸長する教育」が必要になると述べられています。そして、「日本で学ぶ生徒・学生にとって最も大事なものは主体性」であり、「主体性とは、自分の目標を自分で見だし、実践する力」と言われています。総合情報学部は、いち早くこのような新しい時代のニーズに応じた文理融合教育の実践に取り組んでいます。

総合情報学部には、システム情報コース、心理・スポーツ情報コース、メディア文化コースの3つのコースがあります。学びの分野は、各コースのコア分野とそれらの周辺および他分野との融合分野に渡り広い領域を対象としています。皆さんは、このカリキュラムの特徴である自由度の高さを最大限活用して、自分の目的、好みにあったものを主体的に見つけ、そして夢中で取り組むようにして下さい。皆さんのこれからの大学4年間は、皆さんの今後の人生の中で最も重要な4年間です。学生時代は、一生の仕事の基礎を築く最も貴重な時期であり、皆さんのなかに眠るすばらしい幾つもの可能性が大学生活において発掘される、あるいは、再確認されることが望まれます。どのような努力もその中に少しでも無理があれば、苦痛と我慢の必要が生じ、持続もできません。無為自然の境地で、好きで取り組む夢中には勝てません。皆さんが真の自分の個性を発輝し、望むことをやり、望まないことは無理せず、各自の目的を果たさせるように、我々教員はできる限りの手助けをします。一緒に目的に向かって行動し、成長していきましょう。

東洋大学には他に誇るべき素晴らしい学祖井上円了先生の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」があります。本大学に入学したのも何かの縁としますので、大学生活の中で本学部の授業科目を学ぶだけでなく、円了先生の「向上門」、「向下門」の意味などを深く理解するなどして、自己の哲学（人生観・世界観）を持って人生100年時代を深く味わいながら過ごす、きっかけにして貰えればと思います。これからの4年間で人生100年時代の礎を知識、技能、精神、趣味、諸々の面から自身の中にしっかりと確立することを期待します。

総合情報学部総合情報学科の教育研究上の目的

1 人材の養成に関する目的

従来の文系・理系の枠を超えて、社会・経済・環境・スポーツ・心理・文化・芸術などの多様な分野で情報学の新たな教育研究分野の開拓を進め、情報通信技術（ICT）の高度な利活用を先導する、哲学を持った「第一級の情報の創り手・使い手」を育成することを、総合情報学部の目的としています。

2 学生に修得させるべき能力等の教育目標

本学部の教育の目標は、以下の能力を養うことにあります。

- (1) ICTの学問内容及びその活用方法を理解する能力
- (2) ICTを企業経営に生かすための学問内容及びその活用方法を理解する能力
- (3) 自律的に問題の所在を発見し、多面的かつ論理的に分析する能力
- (4) ICTの知識を実践へと高め、社会における諸問題の解決に寄与できる能力
- (5) 他者と有効にコミュニケーションと協業ができる能力

3 その他の教育研究上の目的

本学部の教育研究上の目的は、個々の人間・集団としての組織・学術環境の有機的相互作用によって知識情報社会の革新および発展に貢献し、ICTを情報・心理・スポーツ・メディアなどの多様な分野で活用しつつ、産官学の連携により、新たな総合情報学の知の拠点を確立することにあります。

総合情報学部総合情報学科3つのポリシー

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

総合情報学部では、本学部の卒業認定・学位授与の方針に基づいて編成された教育を受けることができる者として、文系・理系・制作系といった出身を問わず、以下に記した知識・技能、思考力・判断力、表現力等の能力、態度を持つ者を広く受け入れます。

- (1) 文系出身者は文系科目を修得し、理系出身者は理系科目を修得し、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。
- (2) 人間・社会に対して強い興味や関心を持ち、幅広い教養を備え、実践において必要となる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有している。
- (3) 物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをまとめ、他者に的確に伝える、これらに必要とされる思考力・判断力、表現力を有している。
- (4) 学部の特徴を理解し、「社会、情報、メディア、心理、スポーツ」などに興味を持ち、それらを学部の勉学を通じて探求し、修得した専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようという意欲を持ち、積極的に本学部で学ぼうという態度を有している。
- (5) 文系と理系の枠を超えた様々な領域において、「情報」を用いて問題解決する上で必要な情報活用の技能を有している、あるいは情報活用の技能の修得を目的として、積極的に本学部で学ぼうという態度を有している。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

総合情報学科では、現代社会の基盤の1つである情報通信技術（ICT）を、文系・理系の枠組みを超えた様々な分野で利活用するための高度な知識力、判断力、技術力を養うことを目標とし、教育課程を学科共通と下記の3コース

- ・「システム開発・管理・運営」領域を基軸とするシステム情報コース
- ・「心理・スポーツ分野における実践と分析」領域を基軸とする心理・スポーツ情報コース

・「コンテンツ作成・表現」領域を基軸とするメディア文化コースから構成します。学生には1つのコースを主幹コースとして選択させ、各専門領域の教育を行います。

【共通】

- (1) ICTの基礎知識を養う教育を行います。
- (2) マネジメント・企画等の企業経営を養う教育を行います。
- (3) 社会人として備えておくべき社会性・感性・創造力やグループによる活動を養う教育を行います。
- (4) 社会調査の知識や技術を養う教育を行います。
- (5) 国際化に対応したコミュニケーション能力を伸ばすために、4年一貫の英語教育を行います。

【システム情報コース】

システム情報コースでは、以下の方針に沿って教育課程を編成しています。

- (1) ICTを活用したシステムを「提供する側」および「利用する側」双方の能力を持ち合わせた人材を育てる教育を行います。
- (2) ICTを活用したシステムを「提供する側」の視点から、システム・ソフトウェア開発能力やシステム管理・運営能力を養う教育を行います。
- (3) ICTを活用したシステムを「利用する側」の視点から、組織マネジメント能力、経営・財務マネジメント能力、製品・サービス企画能力を養う教育を行います。

【心理・スポーツ情報コース】

心理・スポーツ情報コースでは、以下の方針に沿って教育課程を編成しています。

- (1) 心理を中心にカウンセリングや心理実験に加えて、ITカウンセリング・メンタルトレーニングなど、IT技術を駆使した心理とITの融合領域の教育を行います。
- (2) ICTを活用し、運動する身体やゲーム中のプレイヤーの動きを測定・解析し、科学的に理解・説明する能力を養う教育を行います。
- (3) パーソナルトレーナーやメンタルトレーニングの能力を身につけ、それらに関する資格の取得を目標とします。

【メディア文化コース】

メディア文化コースでは、以下の方針に沿って教育課程を編成しています。

- (1) ICTを活用するシステムを利用したコンテンツの創り手・使い手として、基礎知識から応用技術までを持ち合わせた人材を育てる教育を行います。
- (2) コンピュータを用いて様々な現象を視覚的に表現する能力や、多様なメディアコンテンツやアプリケーションを自在に作成する能力を養う教育を行います。
- (3) 文理双方の不足を補いつつ、人の営みを多面的に捉える能力を養う教育を行います。また、哲学・倫理・芸術・文化・歴史・社会を広く学び、時代と社会の変化・多様化に対応できる柔軟な知性と教養、社会性を養う教育を行います。

ディプロマ・ポリシー（卒業の認定及び学位授与に関する方針）

総合情報学科では、下記の能力を備えた学生に学士（情報学）を授与し、卒業を認めます。

- (1) 情報通信技術の学問内容及び活用方法を理解する能力
- (2) マネジメント・企画等の企業経営の学問内容及び活用方法を理解する能力
- (3) 様々な人間の営みと情報との関係について、自律的に問題の所在を発見し、工学・社会科学・人文科学等多面的かつ論理的に分析する能力
- (4) 自分の役割を自覚し情報通信技術の知識を実践へと高める能力
- (5) 社会の諸問題に情報通信技術を寄与できる能力
- (6) 他者と有効にコミュニケーションと協業ができる能力

I. 授業の履修について

1. 学修にあたって

・学 期

本学部では、1年間を下記の2学期に分けています。

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年の3月31日まで

※ただし、春学期の終了日及び秋学期の開始日は年度によって異なりますので、『学生生活ハンドブック』で確認してください。

本学部では Semester 制を採用しています。Semester 制では1年を2つの Semester に分け、4年間は8つの Semester に分けられます。原則、学期（Semester）単位で授業実施、完結します。

1 学年	第1 Semester	第2 Semester
2 学年	第3 Semester	第4 Semester
3 学年	第5 Semester	第6 Semester
4 学年	第7 Semester	第8 Semester

また、本学部はクォーター授業を導入しており、各学期を2つのクォーターに分けて授業実施、完結することがあります。

春学期		秋学期	
第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター

・修業年限と在学年数

修業年限は4年（8 Semester）です。

在学年数は、通算して8年（16 Semester）が限度となります。

ただし、休学期間は在学年数に算入しません。

・単位制

科目の履修にあたり単位制を採用しています。単位制とは、単位数によって卒業要件が定められる制度です。単位は、履修した科目に対して一定の合格基準（科目の単位数に見合う授業時間および試験での成績）を満たすことにより与えられます。

本学の授業時間は90分を1時限として各 Semester またはクォーターに15回実施されます。講義は1科目で2単位、実験・演習・実習・実技は1科目で1単位となります。

なお、講義の場合は予習と復習にそれぞれ90分、実験演習系科目の場合は予習または復習のいずれかに90分が必要ということになります。予習や復習の時間を考慮し、履修科目の適切な学修時間を確保するために、1 Semester（2つのクォーター）あたりの履修登録単位数は24単位を上限としています。ただし、教職科目には例外があります。（履修についての注意事項P.10(8)を参照）

なお、履修科目の単位修得には、授業回数の3分の2以上の出席が条件となっています。

種 別	単 位 数
講義科目	1科目で2単位
実験・演習・実習・実技科目	1科目で1単位

・卒業要件と卒着条件

卒業要件とは卒業のために必要な要件を定めたものです。

卒着条件とは『卒業関係科目着条件』の略称です。4年次に配当されている卒業研究・制作Ⅰを履修するためには卒着条件Ⅰを満たすことが条件であり、卒業研究・制作Ⅱを履修するためには卒着条件Ⅱを満たすことが条件です。また、卒着条件Ⅰを満たすことが、卒業見込証明書の発行条件となります。

卒業要件および卒着条件は詳細に定められていますので、説明をよく読んで確認してください。

なお、基盤教育・学科共通科目・専門科目の各区分においてそれぞれに必要な

な条件単位数を合計しても、卒業や卒着に必要な条件単位数にはなりませんので、注意してください。指定されている単位数はあくまでも各区分において最低限必要な最少修得単位数を示していますので、実際には、それ以上の単位の修得が必要です。

- ・ 必修科目
- ・ 選択必修科目
- ・ 選択科目

科目には、履修の重要度に応じて、

- ・ 必修科目
- ・ 選択必修科目
- ・ 選択科目

という区分があります。

必修科目とは、必ず修得しなければならない科目です。

選択必修科目とは、指定された科目群の中から指定された単位数以上の修得を必要とする科目です。ここに指定された科目は優先的に履修してください。

選択科目とは、幅広い知識を吸収して、個人の進路に応じた適切な講義内容を選択して履修できる科目です。

- ・ 科目の配当学年

それぞれの科目には、どの学年で履修すべきかが定められています。これを**配当学年**といいます。配当学年が自分の学年よりも上位学年の科目を履修することはできません。配当学年が自分の学年よりも下位学年の科目は履修することができます。

- ・ 履修についての注意事項

(1) 教育課程表

入学年度の所属学科の教育課程表（カリキュラム）が卒業まで適用されます。入学時の教育課程表に存在しない科目は履修できません。4年を超えて在籍した後にカリキュラム変更になった場合には、その新旧科目対応表を参照して必要な科目の対応科目を履修してください。

(2) 科目名称

科目名の後に付く記号のうち、「I・II」は望ましい履修順序を示し、「A・B」は内容や分野の違いを示しています。

(3) 履修登録単位数制限

1セメスター（2つのクォーター）に履修登録できる単位数は、**24単位以内**です。ただし卒業単位として認定されない教職課程の科目については制限対象外です。

(4) 再履修

履修しても、単位修得できなかった科目は、再度履修登録することができます（このことを再履修といいます）。なお、単位修得した科目は、再度履修登録することはできません。

(5) クラス指定

クラス指定された科目はその指示に従って履修登録しなければなりません。再履修の場合は、下の学年の同じクラスを履修することを基本とします。ただし、必修科目や選択必修科目が時間割上重複する場合に限り、**指定クラス外履修申請**を指定された期間中に、教学課窓口へ提出することで、指定されたクラス以外の科目を履修することができます。

(6) 他学部科目の聴講

他学部の専門科目は、実験、実習、演習科目を除き履修することができ、卒業単位に認められます。ToyoNet-Gでは履修登録することはできませんので、履修登録を希望する場合には、履修登録期間中に教学課に問い合わせてください。ただし、この単位数は、1セメスターの履修登録単位数制限（24単位）の中に含まれますので、自学科に必要な科目の履修を優先したうえで、十分考慮して履修してください。

・学士の学位授与

2. 授 業

・授業時間

・休講

・補講

(7) 大学院開講科目の聴講

大学院総合情報学研究科との連携を強め、大学院への進学を希望する学生に対して学部時から専門的な学修の継続を図ることを目的として、総合情報学部3年次以降に大学院開講科目を履修できる「大学院開講科目履修制度」を導入しています。詳細については「9. 大学院開講科目履修制度について」を確認のうえ、教学課窓口にお問い合わせください。

(8) 他大学聴講

単位互換協定により、東京外国語大学の開講科目を履修することができます。詳細は「10. 東京外国語大学との単位互換制度について」を確認のうえ、教学課窓口にお問い合わせください。

(9) 教職課程

「教職に関する科目」については、卒業に必要な単位として認められません。これらの科目は1セメスターあたりの履修登録できる単位数制限（24単位）の対象外となります。（Ⅲ. 教職課程についてP.48(4)②教職に関する科目を参照）

(10) 集中授業

集中授業については、授業に参加する学期に履修登録してください。ただし卒業する学期には履修登録できません。

卒業要件を満たし、修業年限を経過した者には、**学士（情報学）**の学位が授与されます。

授業科目は、春学期または秋学期のいずれかに開講されますが、春秋両学期に開講される科目もあります。

授業時間は90分を1時限とし、以下の表の通り1日5時限分を開講します。

時 限	時 間
1時限	9：00～10：30
2時限	10：40～12：10
昼休み	12：10～13：10
3時限	13：10～14：40
4時限	14：50～16：20
5時限	16：30～18：00

授業科目によっては、連続した複数の時間帯に開講する科目もあります。また、同じ科目を週2回以上開講する科目（クォーター科目）もあります。

教員のやむを得ない理由（学会出張等）により授業を休講にすることがあります。

休講情報は、4号館1階教学課前ディスプレイに掲示します。また、ToyoNet-Gでも確認することができます。電話での問い合わせには一切応じません。

なお、休講の指示がなく、授業開始時刻を30分以上経過しても授業が開始されない場合は、教学課窓口へ連絡の上、指示を受けてください。

次のような場合で、補講を実施するときは、その内容を4号館1階教学課前に掲示します。

- ① 授業が休講になった場合
- ② その他の理由で補講・集中講義を必要とする場合

なお、補講は原則として各学期末の試験・補講調整期間に行いますが、それ以外の日に実施することもありますので、担当教員の指示に従ってください。

・欠席

やむを得ない事由により、授業に欠席した場合は、次の授業時に担当教員へ欠席届を提出してください。欠席届は教学課窓口で配付します。

なお、病気・怪我等で長期欠席することが予想される場合は、事前に教学課に相談してください。

また、教育実習により欠席する場合は、説明会時に配付する欠席届を担当教員に提出してください（Ⅲ．教職課程についての章を参照）。

・オフィスアワー

学生の質問や相談に対し、教員は日常的に時間の許すかぎり、いつでも対応するように努めていますが、学生の便宜をいっそう図るため、オフィスアワーを設定しています。

(1) オフィスアワーとは

正課の授業とは別に学生と教員のコミュニケーションを密接にする場として設けた時間帯のことです。あらかじめ設定された時間帯に専任の教員が研究室で待機し、学生からの質問や相談を受けやすくするための制度です。学生は、自分の所属する学科の教員だけでなく、どの学部・学科の教員を訪ねてもかまいません。

オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や、単位修得について、学習の進め方、履修登録プランなどの相談のほか、レポート指導など、学習に関することをはじめ、卒業後の進路、転部・転科、休学などの進路に関する事、留学、就職、大学院進学のための推薦状に関する事など、学生生活全般にわたって個人的な相談をすることができます。

先生方は、学生の皆さんの様々な相談に応じ対処していただきますが、対処しきれない事柄については、他の専門の先生や、学内外の適切な関係者（組織）をご紹介くださるでしょう。

(2) オフィスアワーの活用方法

オフィスアワーを活用する際は、ToyoNet-Gのシラバス「教員プロフィール」に記載されている「オフィスアワー」の時間帯を確認し、研究室を訪問してください。予約が必要な場合もありますので、その場合は確認をしてから訪問してください。

・交通機関がストップしている場合の授業の取扱い

詳細は大学ホームページ、『学生生活ハンドブック』にて確認してください。

・掲示板

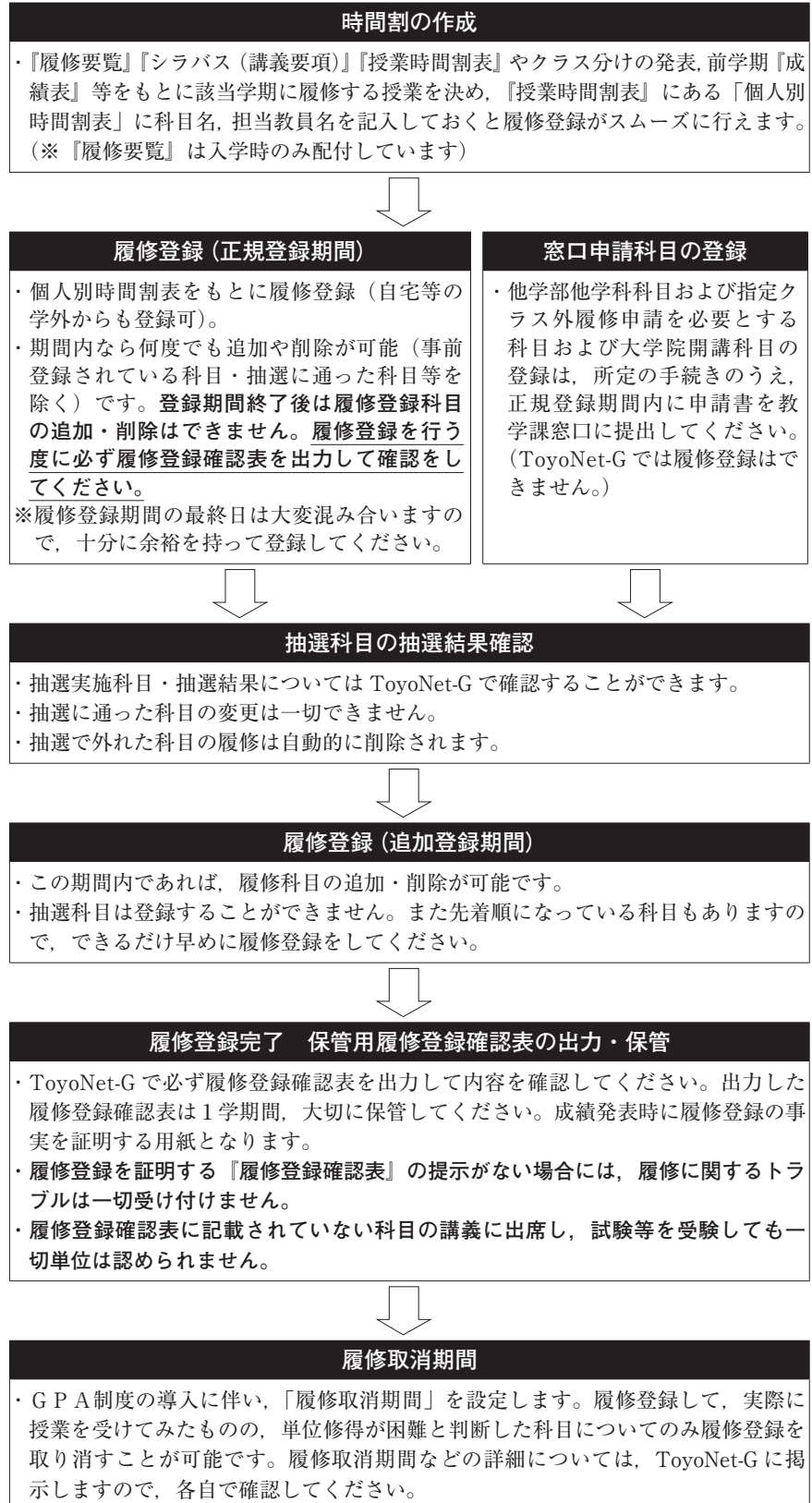
学生への連絡事項や休講情報を4号館1階教学課前掲示板・ディスプレイ・1号館学科掲示板ならびにToyoNet-Gに掲示しますので、各自で確認してください。

3. 履修登録

・履修登録の流れ

履修登録は、春学期の開始時と秋学期の開始時の年2回、ToyoNet-Gを利用して行います。詳細については『ToyoNet-G 利用ガイドブック』を参照してください。

《履修登録の流れ》



4. 試 験

・ 試験の種類

履修した科目の単位を修得するには、授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。

この成績評価を行うための試験は、筆記（レポートを含む）または口頭により行います。

- ① 学期末試験
- ② 平常試験

・ 学期末試験

セメスター授業における期末試験は、各学期16週目の試験・補講調整期間に行われますが、15週目までの平常授業時に試験が行われる場合もあります。試験・補講調整期間は平常授業時と異なる教室で試験・補講が実施されます。試験・補講調整期間における実施教室は、約1週間前に4号館1階教学課前掲示板・ToyoNet-Gで掲示します。

・ 平常試験

平常試験は、担当教員の指示において、平常の授業時間帯に随時行う試験です。また、クォーター授業の最終週に試験が行われる場合もあります。

・ 試験の受験資格

次のいずれかに該当するときは、試験を受験できません。

- ① 履修登録をしていない科目
- ② 学生証を携帯していないとき
- ③ 休学及び停学期間中
- ④ 試験開始後20分を経過したとき

試験の日時、場所、方法等は以下のように発表します。

- ① 学期末試験は、試験・補講調整期間の約1週間前に、実施教室一覧をToyoNet-Gに掲示しますので各自で確認してください。
- ② 平常試験は、担当教員が指示します。

・ 試験当日の注意事項

受験にあたっては以下のことに注意してください。

- ① 試験時間は担当教員の指示によります。試験開始後20分を過ぎても試験会場に入室していない場合は受験資格を失います。また、試験開始後30分を過ぎないと退場できません。中途退場した場合、再入場は認めません。
- ② 受験の際、学生証を表（写真側）にして机の上に置いてください。万一、学生証を忘れた場合には、教学課で「仮学生証」の交付を受けてから受験してください。
- ③ 試験会場では、監督者の指示に従ってください。
- ④ 答案用紙に黒のペンまたはボールペンで学籍番号・氏名を必ず記入してください。なお、一方でも記入のない答案は無効となります。
- ⑤ 試験会場への持ち込みが許可されているものであっても、学生間での貸し借りは不正行為とみなします。
- ⑥ 試験会場では、携帯電話等の通信機能を持つ電子機器を机の上に置けません。また机の上に置かない場合でも、試験の妨げとならないよう電源を必ず切ってください。また、時計代わりの使用も禁じます。
- ⑦ 試験会場への飲食物の持ち込みを禁止します。
- ⑧ 病気、天災、その他やむを得ない理由によって試験を受けられなかった場合、1週間以内に担当教員へ所定の書式に従って不受験届を提出してください。

・ 不正行為の処分

試験会場において、試験監督者の指示に従わないなどの不正な行為があったときには、退室を命じ、学則（第57条）に基づき処分されます（『学生生活ハンドブック』参照）。

5. 成績評価

・ 単位の認定

- ① 単位は、試験やレポート等の結果による成績評価に基づいて認定されます。なお、単位認定されるためには、履修登録した科目の授業に3分の2以上出席しなければなりません。
- ② 履修登録した科目についてのみ成績評価されます。履修登録のない科目を単位認定することはできません。

・ 成績の評価

成績評価基準は、原則として以下のガイドライン（東洋大学成績評価基準）に則って行います。

各科目の評価基準については、シラバス（講義要項）を参照してください。試験の成績は、100点満点の60点以上を合格とし、それ未満は不合格となります。

合否	成績表示	点数	基準
合格	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89～80	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標を達成している。
	C	69～60	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59～40	到達目標を達成していない項目があるが、学修行動を改めることにより達成する可能性がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。

※上記表の他に、留学での学修成果などを単位認定するため「T（Transferの略）」を合格の評価として使用します。

・ TOEICスコアによる
単位認定

TOEICスコアによる単位認定

認定対象科目	認定評価	TOEICスコア	認定可能単位数
Remedial English I	S	550点以上	2科目2単位
	A	500点以上	
Remedial English II	S	650点以上	
	A	600点以上	

申請から認定まで

- ① 申請日から遡って過去1年以内に実施された、TOEIC公開テスト、または東洋大学で実施のTOEIC IPテストを対象とします。
- ② 履修登録期間内に単位認定のための申請手続き、および単位認定対象科目の履修登録を行ってください。
- ③ 申請手続きには、申請用紙とTOEIC Official Score Certificate（公式認定証）、または本学主催のTOEIC IPテストのスコアレポート（いずれもコピー不可）を提出してください。
- ④ 申請した科目の授業終了後、成績発表とともに単位が認定されます。提出されたスコアレポート（本証）は単位認定後返却します。

・ 短期語学セミナーによる
単位認定

本学で実施している「短期語学セミナー」（英語・中国語・フランス語）に参加し、条件を満たすことにより以下の科目の単位を認定します。

「英語と文化」、「中国語と文化」、「フランス語と文化」

・ 成績の発表

※セミナーの詳細については、「V. 国際交流プログラムについて」を参照してください。

成績表は、年4回（第1クォーターは6月下旬、春学期・第2クォーターは9月、第3クォーターは11月下旬、秋学期・第4クォーターは3月）にそれぞれ ToyoNet-G にて公開します。成績表公開期間については、ToyoNet-G に掲示しますので、各自で確認してください。成績表の出力方法については『ToyoNet-G 利用ガイドブック』を参照してください。

※卒業該当学期に卒業再試験受験対象者で受験を希望する場合は、教学課窓口にて所定の手続きを行う必要がありますので注意してください。

・ G P A 制度

2013年度以降入学生より、G P A (Grade Point Average) 制度を導入しています。G P A とは、授業科目ごとの成績に対して、4.3～0.0のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

【G P A の算出方法】

$$(S\text{の修得単位数}\times 4.3) + (A\text{の修得単位数}\times 4.0) + (B\text{の修得単位数}\times 3.0) + (C\text{の修得単位数}\times 2.0) + (D\text{の修得単位数}\times 1.0) + (E\text{の修得単位数}\times 0.0) + (*\text{の修得単位数}\times 0.0)$$

$$\text{GPA} = \frac{\text{総履修登録単位数}}$$

※対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。

※対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, *」とし、認定の評価「T」は対象となりません。

※再履修で評価を受けた成績については、最新の成績が反映されます。(G P A 算出の分母にあたる「総履修登録単位数」にはカウントされません)

※G P A は計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までを表示します。

G P A は、「成績表」に、直近と累積の値が記載され、海外留学の際の学力指標や、学内奨学金の採用基準となる他、成績優秀者の表彰や、学内の学習指導に利用されることがあります。

また、G P A は学生が自らの学修到達度を確認する指標としても活用できます。G P A が2.0以下では学修到達度が不十分ですので、常時2.0を下回らないように心がけてください。

【履修取消について】

G P A 制度の導入に伴い、「履修取消期間」を設定します。履修登録して、実際に授業を受けてみたものの、単位修得が困難と判断した科目についてのみ履修登録を取り消すことが可能です(この期間に履修科目の追加・変更はできません)。履修取消期間などの詳細については、ToyoNet-G に掲示しますので、各自で確認してください。

・ 成績に関する問合せ
(成績調査)

履修登録し、受講・受験したにもかかわらず成績表に評価が記載されていない場合や、記載されている評価に異議申し立てがある場合は、成績調査受付期間中に ToyoNet-G から評価について問い合わせをすることができます。成績調査受付期間については、ToyoNet-G に掲示しますので、各自で確認してください。成績調査申請の方法については『ToyoNet-G 利用ガイドブック』を参照してください。

成績の問い合わせができる期間は、当該セメスター(クォーター)内の成績調査受付期間中のみです。また、電話での問い合わせや手続きはできません。

・学修指導

・卒業再試験

学修指導として、専任教員が学生への指導及び保証人への連絡を行う場合があります。

卒業当該学期において、卒業単位が不足する学生を対象とし、卒業再試験を実施します。再試験の受験資格、対象科目については「総合情報学部卒業再試験実施に関わる内規」に基づき実施されます。卒業再試験の対象外の科目については、P.38の総合情報学科開講科目一覧を確認してください。

総合情報学部卒業再試験実施に関わる内規

(目的)

1. この内規は、不受験者および単位不足者の取り扱いに関する規程第2条に基づき、総合情報学部の単位不足者に対する卒業再試験に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(受験資格)

2. 4年次生で、卒業を希望するものであり、卒業に必要な単位数に6単位以内の不足であり、かつ、3科目以内であるものとする。

(対象科目)

3. 卒業再試験の対象となる科目は以下のすべての条件に該当する科目とする。
 - ① 原則として卒業当該学期に履修登録を行っている科目であること
 - ② 単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目であること

(対象除外科目)

4. 以下の科目は卒業再試験の対象科目から除外する。
 - ① 演習、実習、実験、実技、プラクティス関係科目
 - ② 卒業研究、卒業制作
 - ③ 産学連携科目
 - ④ 不正行為等により無効となった科目
 - ⑤ 通常の評価において「E」「*（評価不能）」と判定された科目
 - ⑥ 他学部と合同で開講し、当該学部で再試験を除外された科目
 - ⑦ 科目の性質上、担当教員と学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとする。

(再試験手続き)

5. 再試験は、卒業当該学期で発表される単位充足者発表時に、定められた時間内に面接を受けた上で所定の手続きを行うものとする。
 - ① 再試験手続きを行わなかった場合は、自動的に受験する権利は消滅する。
 - ② 受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができる。
 - ③ 他学部開講科目を受験する場合は、当該学部の卒業再試験の規定に従うものとする。
 - ④ 代理人での手続きは認めない。

(再試験受験料)

6. 再試験受験料は以下の通りとする。
1科目 5,000円

(再試験の評価)

7. 卒業再試験の成績評価は以下の通りとする。
 - ① 成績評価基準は、それぞれの科目において定期試験で実施した基準と同等とする。
 - ② 再試験の結果、合格した者の成績評価の上限は「C」評価とする。

附 則

- ① この内規は、2009年4月1日から施行する。
- ② この内規は、同学年に在学するものから適用する。
- ③ この内規は、教育体制の変更に伴い、その都度見直すものとする。

Ⅱ. 学科教育課程表および履修方法について

1. 総合情報学科カリキュラムの特徴

総合情報学部総合情報学科は、知識情報化社会において、「第一級の情報の創り手・使い手」となる人材が現代社会を先導する人材であると捉え、さらに、情報コミュニケーション技術（ICT）を利活用しながら情報の価値を高めていけることを「第一級の情報の創り手・使い手」の条件と位置づけています。このため、ICTを基礎としつつ、環境・心理・スポーツ・メディア・文化・芸術などの多方面で情報を的確に収集・編集・表現できる人材の育成をめざします。

現代社会に生きる私たちに求められるのは、高度な思考力と判断力に基づく適切な情報処理と、ICTの正しい利活用によって、より安全で利便性の高い共生社会の創造にむけて豊かな感性をもって協業していくことです。そして、この「共生社会の創造」を先導できるのが総合情報学科の卒業生なのです。

総合情報学科では、こうした創造性の裏付けとなるICTの基礎技術を身につけるとともに、正確な情報の収集、得られた情報の適切な処理、編集した情報の効果的な伝達という、情報に関わる一連のプロセスを理解し実践できる第一級の能力の修得を目指します。

これらの能力を修得するために、総合情報学科では3コース制（システム情報コース、心理・スポーツ情報コース、メディア文化コース）を導入しています。学生は2年生からいずれかのコースに配属し、各コースの高度な専門知識を学修することにより、専門分野におけるICTの高度な利活用の技術を修得していきます。

以下に、総合情報学科の学びの特徴を紹介します。

(1)基盤教育「東洋大学スタンダード」

「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神のもと、東洋大学は現在、地球規模の視点で物事をとらえ、自分の未来を切り開くことのできる「グローバル人財（人という財産）」の育成を目指しています。

「東洋大学スタンダード」は、教育目標である「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の3つの柱をつなぐ「教養教育」を強化し、学部の枠組みを超えて学ぶ基盤教育カリキュラムです。総合大学の特色を生かした幅広い教養教育として次のような枠組みを設けて展開しています。

<基盤教育による全学的人財養成の目標>

- 1) 哲学することを重んじ、自ら考え判断し行動する。
- 2) 知・徳・体の力を伸ばし、生命と自然を尊重する。
- 3) 学問を通じて、論理的思考力と生涯学習への礎を身につける。
- 4) 現代社会における諸課題を解決するための発想力・創造性を養う。
- 5) 自他の伝統と文化を相互に尊重するとともに、自らの個性を育む。
- 6) 21世紀のグローバル社会に貢献できる国際人・地球市民となる。
- 7) 総合的視野に立ち、他の分野の人々とも協働できるリーダーを目指す。

基盤教育「東洋大学スタンダード」によって幅広い知識・教養を身につけるとともに、学科共通科目および専門科目を深く体系的に学ぶことができるよう、本学の学士課程教育が構成されています。

哲学・思想：建学の精神と思考鍛練の基礎

東洋大学の伝統と歴史、創立者の考えを学ぶとともに、東西の哲学を通じて、自ら考え、判断し、行動する能力を身につけることを目指す科目群。創立者・井上円了によれば、「哲学教育」とは、思想鍛練の方法として必要な学問であり、ものの見方や考え方の基礎を身につけることにあります。グローバル人財の育成にあたり必要な実践哲学、倫理観の醸成を重視し、総合的な視野に立って他分野の人々とも協働できるグローバルリーダーを育成します。

学問の基礎：普遍的な学問教育と論理的思考力の育成

人文・社会・自然科学の学問領域を追究する、いわゆる一般教養やリベラル・アーツといわれる科目群。学問上の方法論を修得し、論理的思考力の育成を目指すとともに、多様性を尊重し、地球環境の持続可能性を追求する人財を育成します。また、生涯にわたり学び続ける学習者としての態度を養います。

国際人の形成：グローバル化した地球社会で生きる

国際人を育成することに直接的に関わる、言語や情報等のコミュニケーション関連科目に加え、異文化理解や日本人としてのアイデンティティ、国際関係、地域文化などの理解を深める科目群。また、語学力・コミュニケーション能力を高めることで、他国の文化を受容・尊重し、自国の文化を世界に発信し、グローバル社会に貢献で

きる国際人・地球市民の養成を目指します。

キャリア・市民形成：キャリア教育と知・徳・体の成長を重視した人格教育

知・徳・体のバランスの取れた全人的人間性の養成を目指す科目群。めまぐるしく変化する現代社会においては、市民社会における個人の自由や権利を主張する一方で、地域のコミュニティを育て、連携して課題解決を目指し、協働することを学ぶ必要があります。社会的・職業的な課題における問題解決力や発想力の育成と、総合的な視野を持ち、他分野と協働できる能力の育成を目指し、自ら考え行動することを身につけ、自己実現を図ります。

総合・学際：先進的で総合的な教育内容・学習法の取り組み

さまざまな問題や課題を前面に出した複合的、総合的、学際的なテーマを設定する科目群。授業では最新の研究成果を広く他領域の学生に紹介し、複数の教員によるオムニバス形式、複数の教員が協働する同時登壇形式といった形式で行います。また、演習や討論、対話を通じて、学生が課題を探究・解決するアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れています。ICTを活用したキャンパス間をつないだ同時双方向遠隔授業なども行います。

留学支援科目

LEAP（学術英語習得プログラム）をはじめとする、学生の留学準備および英語強化を支援する準集中型英語プログラムが展開されています。この科目群により、学生のTOEFLのスコアおよび全体的な英語スキルを向上させるための支援、また同時に教室外の学習機会を提供します。

- (2)1年生の導入段階では、情報を取り扱う基礎的な作法や知識（リテラシー）、社会における情報活用の幅広さを体感し学修する期間です。情報科学のコンセプトを理解し、コミュニケーション能力と幅広いICT利活用の基礎を身につけてください。また、各コースの導入となる科目も配置されているため、各コースの概要を把握し、次年度以降のコース配属につなげてください。
- (3)2年生では、各コースに分かれ、コースの専門科目を中心に学び始める段階になります。この段階では、コースの基盤となる専門知識をしっかりと学修することを心掛けてください。
- (4)3年生では、コースの高度な専門知識を学修する段階になります。また、コース内のゼミ配属が実施され、専門分野の特定の分野をより深く掘り下げ、学修する段階でもあります。
- (5)4年生では、修得してきた能力を応用する段階になります。自らの関心と社会の求める課題にしたがって、卒業研究や卒業制作などのプロジェクトに取り組んでください。
- (6)企業の方々に講師としてお招きして、教員と一体となって実施される講義や演習では、情報を利活用する社会経済活動の実態を学んでください。
- (7)文章作成力向上講座、TOEICスコアアップ講座など、学士力と就業力を伸ばす課外講座を用意しています。積極的に取り組んでください。
- (8)各教員は、企業等とも連携しつつ、総合情報学に関わる研究を進めています。その成果が教育内容にも反映されますから、最先端の学問に取り組んでください。
- (9)4年間を通して、教員や学生同士で「教え学びあう」グループ学習の場を、授業、演習、ゼミナール、プロジェクトなどの課程内教育においてはもちろん、課外でも用意しています。総合情報学科での「教え学びあう」活動を、将来に向けて十分に活かしてください。

2. 卒業要件・卒着条件について

1. システム情報コース

1-1. 卒業要件

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	キャリア形成	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係目	科社会調査士関係目	小計	必修	システム情報	心理・スポーツ情報	メディア文化	小計			
単位	2		必外国語6 選外国語4				28				12	23	28	8	8	68			124

1-2. 卒着条件1（卒業研究・制作Ⅰ履修条件）

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅰを履修するためには、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	キャリア形成	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係目	科社会調査士関係目	小計	必修	システム情報	心理・スポーツ情報	メディア文化	小計			
単位												11	24			36			92

1-3. 卒着条件2（卒業研究・制作Ⅱ履修条件）

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅱを履修するためには、卒業研究・制作Ⅰを修得し、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	キャリア形成	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係目	科社会調査士関係目	小計	必修	システム情報	心理・スポーツ情報	メディア文化	小計			
単位												17	26			44			108

2. 心理・スポーツ情報コース

2-1. 卒業要件

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	市民形成	キャリア・総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	ビジネス関係	社会調査士関係	小計	必修	心理・スポーツ情報	システム情報	メディア文化	小計			
単位	2		必外国語6 選外国語4				28				12	23	28	8	8	68			124

2-2. 卒着条件1 (卒業研究・制作I履修条件)

4年次の必修科目卒業研究・制作Iを履修するためには、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	市民形成	キャリア・総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	ビジネス関係	社会調査士関係	小計	必修	心理・スポーツ情報	システム情報	メディア文化	小計			
単位												11	24			36			92

2-3. 卒着条件2 (卒業研究・制作II履修条件)

4年次の必修科目卒業研究・制作IIを履修するためには、卒業研究・制作Iを修得し、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	市民形成	キャリア・総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	ビジネス関係	社会調査士関係	小計	必修	心理・スポーツ情報	システム情報	メディア文化	小計			
単位												17	26			44			108

3. メディア文化コース

3-1. 卒業要件

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	市民形成	キャリア	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係	科社会調査士関係	小計	必修	メディア文化	システム情報	心理・スポーツ情報			
単位	2		必外国語 6 選外国語 4				28				12	23	28	8	8	68		124	

3-2. 卒着条件1 (卒業研究・制作Ⅰ履修条件)

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅰを履修するためには、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	市民形成	キャリア	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係	科社会調査士関係	小計	必修	メディア文化	システム情報	心理・スポーツ情報			
単位												11	24			36		92	

3-3. 卒着条件2 (卒業研究・制作Ⅱ履修条件)

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅱを履修するためには、卒業研究・制作Ⅰを修得し、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	市民形成	キャリア	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係	科社会調査士関係	小計	必修	メディア文化	システム情報	心理・スポーツ情報			
単位													17	26			44		108

3. コース分けについて

・コース配属

第3 Semesterから、3コースのうちの1コースに配属することになります。そして、「2. 卒業要件・卒着条件」の条件に基づき、コース毎に設定された各科目区分に必要な単位数の科目を履修していきます。

コース分けは、第2 Semester末に、3コースに対し第1希望から第3希望まで希望調査を実施します。教育の質を落とさないため、学年毎に各コースの所属人数に上限数（約120名）を設けます。第1希望のコースの希望人数が上限数を超えた場合、希望コースの専門科目の最低修得単位数（6単位）以上を最低条件とし、GPAの上位者から上限数まで選別します。この選別で上限数に満たない場合、さらに、最低修得単位数の条件を外し、GPAの上位者から上限数まで選別します。選別で落ちた学生は第2希望（GPAの上位者から選別）、第3希望への配属になります。ただし、自己推薦入試により入学した学生がシステム情報コースを第1希望にした場合と運動部優秀選手推薦入学試験により入学した学生が心理・スポーツ情報コースを第1希望にした場合は、上記の条件とは無関係に優先的に配属されます。

・転コース

他のコースへの転属が1回のみ認められる場合があります。第4 Semesterの時点で欠員が生じた場合など学生を追加配属可能な場合、各コースの判断により転コース試験を実施します。受験資格として、最低総修得単位数（62単位）以上および転入先コースの専門科目の最低修得単位数（10単位）以上の条件が課せられます。

※受験資格の最低単位数には受験時のSemesterの履修登録単位数を含みますが、転コース試験に合格しても、当該Semesterの終了時点で最低単位数の条件に満たない場合、合格を取り消します。

4. 履修について

4-1. 履修単位数

各学期に履修できる単位数の上限は24単位までです。ただし、卒業に必要な単位として認められない科目（すなわち教職課程の科目）については制限がありません。

また、すでにS・A・B・Cのいずれかの成績で合格して単位を修得した科目を、再び履修することはできません。

4-2. 履修上の注意

履修の際は、以下の点に注意してください。

①ローマ数字で履修順序を指定されている科目は、配当されている学年で番号順に履修しなければなりません。

ただし、修得できなかった場合、在学する学年より下の学年に配当されている科目は、番号順に関わらず履修・修得することができます。

②卒業研究・制作Ⅱを履修するためには、卒業研究・制作Ⅰを修得済みであることが必要です。

5. 教育課程表の見方・科目ナンバー

教育課程表の見方

総合情報学科教育課程表（2019年度入学生用）

区分 (条件単位数)	必修/ 選択	科目 ナンバー	科目名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考	
						1学年		2学年		3学年		4学年			
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
専門科目 卒業要件：68単位以上，卒着条件1：36単位以上，卒着条件2：44単位以上															
必修 卒業要件：23単位，卒着条件1：11単位，卒着条件2：17単位															
	必修	SEM102	基礎ゼミナール	1	1	○									
	必修	SEM101	総合情報学概論	2	1	○									
	必修	SEM111	総合情報学基礎演習 I	2	1	○									
(1)	(2)	(3)		(4)		(5)		(6)							

(1)区分（条件単位数）

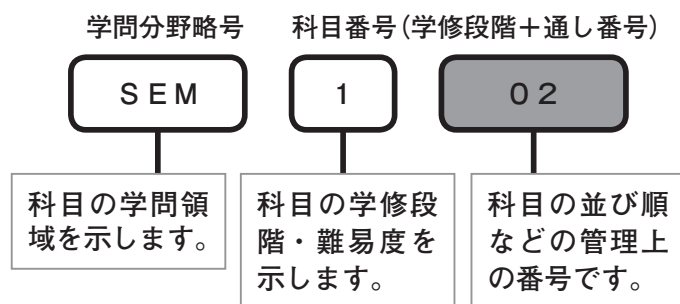
教育課程表（カリキュラム）は科目分野，学問分野ごとに区分が分けられており，大区分，中区分，小区分に区切られて記載されています。各区分の意味はカリキュラムの特徴（P.19）を確認してください。

卒業要件・卒着条件単位数が定められている場合，各区分の右側に単位数が記載されています。

(2)必修／選択

必修科目，選択必修科目，選択科目の別が記載されています。各科目の意味はP.9を確認してください。

(3)科目ナンバー



各授業科目には，学問分野略号を示す記号と科目番号が付与されています（総合情報学科教育課程表を参照）。学問分野略号と科目番号の意味はP.26を確認してください。

(4)単位数・配当学年

各授業科目に単位数，配当学年が記載されています。入学年度・学科によって単位数・配当学年が異なることがあるので必ず入学年度・自学科の課程表を確認してください。単位数・配当学年の意味はP.8～9を確認してください。

(5)履修モデル

各授業科目において，学科として履修するのに一番望ましいと考える学期，クラス分けが定められている場合，数字や記号が記載されています。開講学期は，事情により変更になることがあります。

○	学科として履修するのに一番望ましいと考える学期 ※ 全ての科目を望ましい学期で履修することはできません。
☆	学科として特に履修を推奨する科目
/	配当学年により履修できない学期
奇・偶	学籍番号の下1桁が，奇数が偶数かによってクラスが指定されている科目

(6)備考

科目の先修条件、履修上の注意が定められている場合、備考欄に記載があります。

学問分野略号・科目番号一覧

学問分野略号

各科目に付与されている科目ナンバーの学問分野略号は次の通りの分類になっています。

学問分野略号	学問分野名称	学問分野略号	学問分野名称	学問分野略号	学問分野名称
ACC	会計学	EXP	実験心理学	MUD	マルチメディア・データベース
ARL	芸術一般	FAH	美術史	PHE	哲学・倫理学
AST	天文学	FEN	流体工学	PHY	物理学
BAB	基礎生物学	FMA	数学基礎・応用数学	PIP	知覚情報処理
BEB	生体医工学・生体材料学	FRA	語学（フランス語）	POI	情報学基礎
BIE	人間医工学	FUL	基礎法学	POL	政治学
CGS	認知科学	GER	語学（ドイツ語）	PSS	精神神経科学
CHI	語学（中国語）	HII	ヒューマンインターフェース・インタラクション	PSY	心理学
CIV	キャリア/インターシップ/ボランティア系科目	HPC	高性能計算	PUL	公法学
CLD	衣・住生活学	HSG	史学一般	RES	宗教学
CLI	臨床心理学	HSS	健康・スポーツ科学	SCO	ソフトコンピューティング
CME	商学	IHR	国際人の形成（基盤教育）	SEM	ゼミナール/基礎演習
CMS	計算科学	INI	知能情報学	SES	環境創成学
COS	計算機システム	INN	情報ネットワーク	SHS	科学社会学・科学技術史
CUA	文化人類学・民俗学	ISE	情報セキュリティ	SOC	社会学
DES	デザイン学	ITS	総合・学際（基盤教育）	SOF	ソフトウェア
DEV	持続可能システム	JPN	語学（日本語）	SOP	社会心理学
DYC	機械力学・制御	KAI	感性情報学	SPS	スポーツ科学
ECM	環境材料・リサイクル	KOR	語学（韓国語）	SSE	社会システム工学・安全システム
ECO	経済学	LIH	図書館情報学・人文社会情報学	STS	統計科学
EDP	教育心理学	LIN	言語学	THE	卒業論文/卒業制作
EGI	エンタテインメント・ゲーム情報学	LIT	文学	THI	情報学基礎理論
ENG	語学（英語）	MAN	経営学	TYS	自校教育科目
EPS	環境政策・環境社会システム	MEE	計測工学	WIS	ウェブ情報学・サービス情報学

科目番号（学修段階＋通し番号）

100 番台	主に大学1年生を対象とした授業（1年次レベル）
200 番台	主に大学2年生を対象とした授業（2年次レベル）
300 番台	主に大学3年生を対象とした授業（3年次レベル）
400 番台	主に大学4年生を対象とした授業（4年次レベル）
500 番台	大学院レベル

※上記の科目番号は授業の難易度を示すものとして表記されています。教育課程表に記載されている配当学年（履修可能年次）と異なる場合があります。

6. 学科教育課程表

総合情報学科教育課程表（2019年度入学生用）

—基盤教育—

区分 (条件単位数)	必修/ 選択	科目 ナンバー	科目名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
基盤教育 卒業要件：28 単位以上														
哲学・思想 卒業要件：2 単位以上														
	選択必修	PHE101	哲学	2	1-4									
	選択必修	PHE102	倫理学	2	1-4									
	選択必修	PHE103	論理学	2	1-4									
	選択必修	TYS101	井上円了と東洋大学	2	1-4									
	選択必修	RES101	宗教学	2	1-4									
学問の基礎														
	選択	AST101	天文学	2	1-4									
	選択	SES101	環境科学	2	1-4									
	選択	FAH101	美術史	2	1-4									
	選択	BAB101	生物学	2	1-4									
	選択	LIT101	文学	2	1-4									
	選択	HSG101	歴史学	2	1-4									
	選択	LIN105	言語学	2	1-4									
	選択	SHS101	科学史	2	1-4									
	選択	ECO101	経済学	2	1-4									
	選択	SOC101	社会学	2	1-4									
	選択	FUL101	法学	2	1-4									
	選択	POL101	政治学	2	1-4									
国際人の形成 卒業要件：必修6 単位，選択必修4 単位以上														
外国語必修 卒業要件：必修6 単位														
英語														
	必修	ENG101	Integrated Practical English I	1	1	○								クラス分け科目
	必修	ENG102	Integrated Practical English II	1	1		○							クラス分け科目
	必修	ENG103	English for TOEIC I	1	1	○								クラス分け科目
	必修	ENG104	English Presentation I	1	1		○							クラス分け科目
	必修	ENG201	English for TOEIC II	1	2	/	/	○						クラス分け科目
	必修	ENG202	English Presentation II	1	2	/	/		○					クラス分け科目
日本語 【外国人留学生入試入学者のみ】														
	必修	JPN101	日本語 I A	1	1	○								外国人留学生入試で入学した学生は日本語6 単位を必修とする。
	必修	JPN102	日本語 I B	1	1		○							
	必修	JPN103	日本語 II A	1	1	○								
	必修	JPN104	日本語 II B	1	1		○							
	必修	JPN205	日本語 III A	1	2	/	/	○						
	必修	JPN206	日本語 III B	1	2	/	/		○					
外国語選択必修 卒業要件：4 単位以上														
	選択必修	ENG203	Advanced TOEIC I	1	2	/	/		○					
	選択必修	ENG204	Remedial English I	1	2	/	/	○						
	選択必修	ENG205	Technical Reading	1	2	/	/	○						
	選択必修	ENG206	Technical Writing	1	2	/	/		○					
	選択必修	ENG301	Advanced TOEIC II	1	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	ENG302	Remedial English II	1	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	ENG303	Academic English	1	3	/	/	/	/	○	○			
	選択必修	ENG304	Business English	1	3	/	/	/	/	○	○			

総合情報学科教育課程表 (2019年度入学生用)

—基盤教育—

区分 (条件単位数)	必修/ 選択	科目 ナンバー	科目名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1学年		2学年		3学年		4学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
基盤教育 卒業要件：28単位以上														
国際人の形成 (つづき)														
	選択	ENG105	英語と文化	2	1-4									
	選択	GER101	ドイツ語と文化	2	1-4									
	選択	FRA101	フランス語と文化	2	1-4									
	選択	CHI101	中国語と文化	2	1-4									
	選択	KOR101	韓国語と文化	2	1-4									
	選択	IHR101	国際キャリア概論	2	1-4									
	選択	IHR102	留学のすすめ	2	1-4									
	選択	IHR103	海外研修 I	2	1-4									
	選択	IHR104	海外研修 II	2	1-4									
	選択	IHR105	海外実習 I	2	1-4									
	選択	IHR106	海外実習 II	2	1-4									
	選択	IHR107	短期海外研修 I	1	1-4									
	選択	IHR108	短期海外研修 II	1	1-4									
	選択	IHR109	短期海外研修 III	1	1-4									
	選択	IHR110	短期海外研修 IV	1	1-4									
	選択	IHR111	短期海外実習 I	1	1-4									
	選択	IHR112	短期海外実習 II	1	1-4									
	選択	IHR113	短期海外実習 III	1	1-4									
	選択	IHR114	短期海外実習 IV	1	1-4									
キャリア・市民形成														
	選択	PUL101	日本国憲法	2	1-4									
	選択	CIV101	キャリア形成	2	1-4									
	選択	HSS101	スポーツ健康科学実技 I	1	1-4									
	選択	HSS102	スポーツ健康科学実技 II	1	1-4									
	選択	HSS103	スポーツ健康科学講義 (身体の健康)	2	1-4									
	選択	HSS104	スポーツ健康科学講義 (心の健康)	2	1-4									
総合・学際														
	選択	ITS101	総合 A	2	1-4									
	選択	ITS102	総合 B	2	1-4									
	選択	ITS103	総合 C	2	1-4									
	選択	ITS104	全学総合 I A	2	1-4									
	選択	ITS105	全学総合 I B	2	1-4									
	選択	ITS106	全学総合 II A	2	1-4									
	選択	ITS107	全学総合 II B	2	1-4									
留学支援科目														
	選択	ENG105	English for Academic Purposes A Listening/Speaking	2	1-4									
	選択	ENG106	English for Academic Purposes B Reading/Writing	2	1-4									
	選択	ENG207	Pre-Study Abroad College Study Skills	1	1-4									
	選択	ENG208	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1	1-4									
	選択	ENG209	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1	1-4									
	選択	SUS101	Business English Communication	2	1-4									

総合情報学科教育課程表 (2019年度入学生用)

—学科共通科目—

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1学年		2学年		3学年		4学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学科共通科目 卒業要件：12 単位以上														
基礎科目														
	選択	FMA101	基礎数学 A	2	1	○								
	選択	FMA102	基礎数学 B	2	1	○								
	選択	SCE101	基礎科学	2	1		○							
	選択	BEB101	人体の構造と機能及び疾病	2	1		○							
	選択	FMA103	情報数学	2	1	○								
	選択	SEM411	専門英語講読 I	1	4	/	/	/	/	/	/	☆		
	選択	SEM412	専門英語講読 II	1	4	/	/	/	/	/	/		☆	
ビジネス関係科目														
	選択	MAN101	経営学の基礎	2	1		○							
	選択	CGS101	ロジカルシンキング	2	1	○								
	選択	CGS102	知覚・認知心理学	2	1	○								
	選択	ACC201	企業会計論	2	2	/	/	○						
	選択	INN201	ビジネスシステム論	2	2	/	/		○					
	選択	CME201	マーケティング論	2	2	/	/	○						
	選択	SOP201	社会心理学	2	2	/	/	○						
	選択	SOP301	産業・組織心理学	2	3	/	/	/	/		○			
	選択	SOP302	社会・集団・家族心理学	2	3	/	/	/	/		○			
社会調査士関係科目														
	選択	SOC102	社会調査入門	2	1	○								
	選択	CLI101	心理的アセスメント	2	1		○							
	選択	STS101	確率と統計	2	1	○								
	選択	STS102	心理学統計法	2	1		○							
	選択	PSY201	心理学研究法	2	2	/	/	○						
	選択	STS201	多変量解析	2	2	/	/		○					
	選択	SOC301	調査実習 I	2	3	/	/	/	/	○				
	選択	SOC302	調査実習 II	2	3	/	/	/	/		○			

総合情報学科

総合情報学科教育課程表 (2019年度入学生用)

ーシステム情報コースー

区分 (条件単位数)	必修/ 選択	科目 ナンバー	科目名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考	
						1学年		2学年		3学年		4学年			
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
専門科目 卒業要件：68単位以上，卒着条件1：36単位以上，卒着条件2：44単位以上															
必修 卒業要件：23単位，卒着条件1：11単位，卒着条件2：17単位															
	必修	SEM102	基礎ゼミナール	1	1	○									
	必修	SEM101	総合情報学概論	2	1	○									
	必修	SEM111	総合情報学基礎演習Ⅰ	2	1	○									
	必修	SEM112	総合情報学基礎演習Ⅱ	2	1		○								
	必修	SEM211	総合情報学演習Ⅰ	2	2	／	／	○							
	必修	SEM212	総合情報学演習Ⅱ	2	2	／	／		○						
	必修	SEM311	総合情報学演習Ⅲ	2	3	／	／	／	／	○					
	必修	SEM312	総合情報学演習Ⅳ	2	3	／	／	／	／		○				
	必修	THE401	卒業研究・制作Ⅰ	4	4	／	／	／	／	／	／	○		卒着条件1を満たしていること	
	必修	THE402	卒業研究・制作Ⅱ	4	4	／	／	／	／	／	／		○	卒着条件2を満たしていること，卒業研究・制作を修得済	
システム情報コース 卒業要件：28単位以上，卒着条件1：24単位以上，卒着条件2：26単位以上															
	選択必修	SOF101	入門プログラミング	2	1	○									
	選択必修	SOF102	プログラミング技法Ⅰ	2	1		○								
	選択必修	INN101	ネットワーク通信入門	2	1		○								
	選択必修	EPS101	環境情報学の基礎	2	1	○									
	選択必修	WIS101	サービス情報論	2	1		○								
	選択必修	SOF201	プログラミング技法Ⅱ	2	2	／	／	○							
	選択必修	SOF202	ソフトウェア工学Ⅰ	2	2	／	／	○							
	選択必修	SOF203	ソフトウェア工学Ⅱ	2	2	／	／		○						
	選択必修	COS201	コンピュータアーキテクチャ	2	2	／	／		○						
	選択必修	SOF204	オペレーティングシステム	2	2	／	／	○							
	選択必修	MUD201	データベース	2	2	／	／	○							
	選択必修	THI201	アルゴリズムの基礎	2	2	／	／		○						
	選択必修	DEV201	資源・エネルギーマネジメント論	2	2	／	／	○							
	選択必修	EPS201	CSR論	2	2	／	／		○						
	選択必修	SSE201	社会インフラ論	2	2	／	／	○							
	選択必修	ECM201	グリーンプロダクト	2	2	／	／		○						
	選択必修	CME202	マーケティング実践論	2	2	／	／		○						
	選択必修	SOF301	プロジェクト管理	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	INI301	人工知能Ⅰ	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	SCO301	人工知能Ⅱ	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	COS301	情報システム管理	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	ISE301	情報セキュリティ	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	HPC301	ネットワークコンピューティング	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	MEE301	信号処理	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	INN301	システム監査論	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	CLD301	コミュニティデザイン論	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	CME301	消費者選好分析	2	3	／	／	／	／	○					
心理・スポーツ情報コース 卒業要件：8単位以上															
	選択必修	SPS101	スポーツメカニクス入門	2	1		○								
	選択必修	HSS105	スポーツ行動心理学	2	1	○									
	選択必修	HSS106	スポーツ行動心理計測学入門	2	1		○								
	選択必修	CUA101	スポーツの思想と歴史	2	1	○									
	選択必修	HSS107	スポーツと栄養学	2	1		○								
	選択必修	PSY101	心理学概論	2	1	○									
	選択必修	CLI102	臨床心理学概論	2	1		○								
	選択必修	EXP101	心理学実験	2	1		○								
	選択必修	CGS103	学習・言語心理学	2	1		○								
	選択必修	PSY102	感情・人格心理学	2	1	○									
	選択必修	SOP101	健康・医療心理学	2	1	○									
	選択必修	EDP101	教育・学校心理学	2	1	○									
	選択必修	FEN201	スポーツ流体科学入門	2	2	／	／	○							
	選択必修	SPS201	スポーツバイオメカニクス	2	2	／	／		○						
	選択必修	PIP201	身体動作計測	2	2	／	／		○						
	選択必修	SPS202	運動科学／生理学	2	2	／	／		○						

総合情報学科教育課程表 (2019年度入学生用)

ーシステム情報コースー

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
専門科目 卒業要件：68 単位以上， 卒着条件 1：36 単位以上， 卒着条件 2：44 単位以上														
心理・スポーツ情報コース (つづき)														
	選択必修	HSS201	スポーツ行動心理計測論	2	2	/	/	○						
	選択必修	HSS202	スポーツ行動心理計測法	2	2	/	/	○						
	選択必修	HSS203	エクササイズ・トレーニングの技術とその指導	2	2	/	/		○					
	選択必修	HSS204	トレーニングにおけるリスクマネジメント	1	2	/	/	○						
	選択必修	HSS205	エクササイズ指導実習	1	2	/	/		○					
	選択必修	PSS201	神経・生理心理学	2	2	/	/	○						
	選択必修	EDP201	発達心理学	2	2	/	/	○						
	選択必修	PSY202	障害者・障害児心理学	2	2	/	/		○					
	選択必修	PSY203	福祉心理学	2	2	/	/		○					
	選択必修	PSY204	司法・犯罪心理学	2	2	/	/		○					
	選択必修	DYC301	スポーツダイナミクス	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	DYC302	身体動作解析	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	KAI302	スポーツ感性商品デザイン	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	HSS301	スポーツパフォーマンス	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	HII301	ヒューマンインタフェース	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	PIP301	スポーツ情報処理論	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	SPS301	スポーツプログラムデザイン	2	3	/	/	/	/			○		
	選択必修	PSY301	公認心理師の職責	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	CLI301	心理学的支援法	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	SOP303	精神疾患とその治療	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	POL301	関係行政論	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	CLI302	心理演習	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	CLI303	心理実習	2	3	/	/	/	/		○			
メディア文化コース 卒業要件：8 単位以上														
	選択必修	EGI101	コンピュータグラフィックス論	2	1	○								
	選択必修	LIH101	メディア概論	2	1		○							
	選択必修	EGI102	メディア表現論	2	1		○							
	選択必修	EGI103	映像メディア作成技法	2	1		○							
	選択必修	LIH102	文化情報論	2	1		○							
	選択必修	CMS201	マルチメディアシミュレーション論	2	2	/	/		○					
	選択必修	EGI201	コンピュータグラフィックス技法	2	2	/	/	○						
	選択必修	EGI202	映像メディア論	2	2	/	/	○						
	選択必修	EGI203	コンテンツ作成技法	2	2	/	/		○					
	選択必修	WIS201	ネットワークメディア概論	2	2	/	/		○					
	選択必修	SHS201	メディアの歴史	2	2	/	/		○					
	選択必修	DES201	メディアデザイン論	2	2	/	/		○					
	選択必修	ARL201	芸術学	2	2	/	/		○					
	選択必修	SHS202	技術文化史	2	2	/	/	○						
	選択必修	EGI301	コンテンツ作成のためのCG	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	EGI302	コンテンツ作成のためのデータ処理	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	CMS301	マルチメディアシミュレーション技法	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	WIS301	ネットワークメディア技法	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	DES301	デジタルデザイン論	2	3	/	/	/	/			○		
	選択必修	DES302	メディアデザイン技法	2	3	/	/	/	/			○		
	選択必修	SOC305	メディアプランニング	2	3	/	/	/	/			○		
	選択必修	CGS301	言語情報論	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	CGS302	サイエンスとアート	2	3	/	/	/	/			○		
	選択必修	KAI301	感性学	2	3	/	/	/	/	○				
教職関係科目														
	選択	P0I101	情報処理基礎	2	1-4									
	選択	P0I102	情報化社会と倫理	2	1-4									
	選択	P0I103	情報化社会と職業	2	1-4									

総合情報学科

総合情報学科教育課程表 (2019年度入学生用)

—心理・スポーツ情報コース—

区分 (条件単位数)	必修/ 選択	科目 ナンバー	科目名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考	
						1学年		2学年		3学年		4学年			
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
専門科目 卒業要件：68単位以上，卒着条件1：36単位以上，卒着条件2：44単位以上															
必修 卒業要件：23単位，卒着条件1：11単位，卒着条件2：17単位															
	必修	SEM102	基礎ゼミナール	1	1	○									
	必修	SEM101	総合情報学概論	2	1	○									
	必修	SEM111	総合情報学基礎演習Ⅰ	2	1	○									
	必修	SEM112	総合情報学基礎演習Ⅱ	2	1		○								
	必修	SEM211	総合情報学演習Ⅰ	2	2	／	／	○							
	必修	SEM212	総合情報学演習Ⅱ	2	2	／	／		○						
	必修	SEM311	総合情報学演習Ⅲ	2	3	／	／	／	／	○					
	必修	SEM312	総合情報学演習Ⅳ	2	3	／	／	／	／		○				
	必修	THE401	卒業研究・制作Ⅰ	4	4	／	／	／	／	／	／	○			卒着条件1を満たしていること
	必修	THE402	卒業研究・制作Ⅱ	4	4	／	／	／	／	／	／		○		卒着条件2を満たしていること，卒業研究・制作を修了済
心理・スポーツ情報コース 卒業要件：28単位以上，卒着条件1：24単位以上，卒着条件2：26単位以上															
	選択必修	SPS101	スポーツメカニクス入門	2	1		○								
	選択必修	HSS105	スポーツ行動心理学	2	1	○									
	選択必修	HSS106	スポーツ行動心理計測学入門	2	1		○								
	選択必修	CUA101	スポーツの思想と歴史	2	1	○									
	選択必修	HSS107	スポーツと栄養学	2	1		○								
	選択必修	PSY101	心理学概論	2	1	○									
	選択必修	CLI102	臨床心理学概論	2	1		○								
	選択必修	EXP101	心理学実験	2	1		○								
	選択必修	CGS103	学習・言語心理学	2	1		○								
	選択必修	PSY102	感情・人格心理学	2	1	○									
	選択必修	SOP101	健康・医療心理学	2	1	○									
	選択必修	EDP101	教育・学校心理学	2	1	○									
	選択必修	FEN201	スポーツ流体科学入門	2	2	／	／	○							
	選択必修	SPS201	スポーツバイオメカニクス	2	2	／	／		○						
	選択必修	PIP201	身体動作計測	2	2	／	／		○						
	選択必修	SPS202	運動科学／生理学	2	2	／	／		○						
	選択必修	HSS201	スポーツ行動心理計測論	2	2	／	／	○							
	選択必修	HSS202	スポーツ行動心理計測法	2	2	／	／	○							
	選択必修	HSS203	エクササイズ・トレーニングの技術とその指導	2	2	／	／		○						
	選択必修	HSS204	トレーニングにおけるリスクマネジメント	1	2	／	／	○							
	選択必修	HSS205	エクササイズ指導実習	1	2	／	／		○						
	選択必修	PSS201	神経・生理心理学	2	2	／	／	○							
	選択必修	EDP201	発達心理学	2	2	／	／	○							
	選択必修	PSY202	障害者・障害児心理学	2	2	／	／		○						
	選択必修	PSY203	福祉心理学	2	2	／	／		○						
	選択必修	PSY204	司法・犯罪心理学	2	2	／	／		○						
	選択必修	DYC301	スポーツダイナミクス	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	DYC302	身体動作解析	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	KAI302	スポーツ感性商品デザイン	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	HSS301	スポーツパフォーマンス	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	HII301	ヒューマンインタフェース	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	PIP301	スポーツ情報処理論	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	SPS301	スポーツプログラムデザイン	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	PSY301	公認心理師の職責	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	CLI301	心理学的支援法	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	SOP303	精神疾患とその治療	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	POL301	関係行政論	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	CLI302	心理演習	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	CLI303	心理実習	2	3	／	／	／	／		○				
システム情報コース 卒業要件：8単位以上															
	選択必修	SOF101	入門プログラミング	2	1	○									
	選択必修	SOF102	プログラミング技法Ⅰ	2	1		○								
	選択必修	INN101	ネットワーク通信入門	2	1		○								
	選択必修	EPS101	環境情報学の基礎	2	1	○									

総合情報学科教育課程表 (2019年度入学生用)

—心理・スポーツ情報コース—

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
専門科目 卒業要件：68 単位以上、 卒着条件 1：36 単位以上、 卒着条件 2：44 単位以上														
システム情報コース (つづき)														
	選択必修	WIS101	サービス情報論	2	1		○							
	選択必修	SOF201	プログラミング技法Ⅱ	2	2	／	／	○						
	選択必修	SOF202	ソフトウェア工学Ⅰ	2	2	／	／	○						
	選択必修	SOF203	ソフトウェア工学Ⅱ	2	2	／	／		○					
	選択必修	COS201	コンピュータアーキテクチャ	2	2	／	／		○					
	選択必修	SOF204	オペレーティングシステム	2	2	／	／	○						
	選択必修	MUD201	データベース	2	2	／	／	○						
	選択必修	THI201	アルゴリズムの基礎	2	2	／	／		○					
	選択必修	DEV201	資源・エネルギーマネジメント論	2	2	／	／	○						
	選択必修	EPS201	CSR 論	2	2	／	／		○					
	選択必修	SSE201	社会インフラ論	2	2	／	／	○						
	選択必修	ECM201	グリーンプロダクト	2	2	／	／		○					
	選択必修	CME202	マーケティング実践論	2	2	／	／		○					
	選択必修	SOF301	プロジェクト管理	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	INI301	人工知能Ⅰ	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	SCO301	人工知能Ⅱ	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	COS301	情報システム管理	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	ISE301	情報セキュリティ	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	HPC301	ネットワークコンピューティング	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	MEE301	信号処理	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	INN301	システム監査論	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	CLD301	コミュニティデザイン論	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	CME301	消費者選好分析	2	3	／	／	／	／	○				
メディア文化コース 卒業要件：8 単位以上														
	選択必修	EGI101	コンピュータグラフィックス論	2	1	○								
	選択必修	LIH101	メディア概論	2	1		○							
	選択必修	EGI102	メディア表現論	2	1		○							
	選択必修	EGI103	映像メディア作成技法	2	1		○							
	選択必修	LIH102	文化情報論	2	1		○							
	選択必修	CMS201	マルチメディアシミュレーション論	2	2	／	／		○					
	選択必修	EGI201	コンピュータグラフィックス技法	2	2	／	／	○						
	選択必修	EGI202	映像メディア論	2	2	／	／	○						
	選択必修	EGI203	コンテンツ作成技法	2	2	／	／		○					
	選択必修	WIS201	ネットワークメディア概論	2	2	／	／		○					
	選択必修	SHS201	メディアの歴史	2	2	／	／		○					
	選択必修	DES201	メディアデザイン論	2	2	／	／		○					
	選択必修	ARL201	芸術学	2	2	／	／		○					
	選択必修	SHS202	技術文化史	2	2	／	／	○						
	選択必修	EGI301	コンテンツ作成のためのCG	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	EGI302	コンテンツ作成のためのデータ処理	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	CMS301	マルチメディアシミュレーション技法	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	WIS301	ネットワークメディア技法	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	DES301	デジタルデザイン論	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	DES302	メディアデザイン技法	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	SOC305	メディアプランニング	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	CGS301	言語情報論	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	CGS302	サイエンスとアート	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	KAI301	感性学	2	3	／	／	／	／	○				
教職関係科目														
	選択	POI101	情報処理基礎	2	1-4									
	選択	POI102	情報化社会と倫理	2	1-4									
	選択	POI103	情報化社会と職業	2	1-4									

総合情報学科

総合情報学科教育課程表 (2019年度入学生用)

ーメディア文化コースー

区分 (条件単位数)	必修/ 選択	科目 ナンバー	科目名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考	
						1学年		2学年		3学年		4学年			
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
専門科目 卒業要件：68単位以上，卒着条件1：36単位以上，卒着条件2：44単位以上															
必修 卒業要件：23単位，卒着条件1：11単位，卒着条件2：17単位															
	必修	SEM102	基礎ゼミナール	1	1	○									
	必修	SEM101	総合情報学概論	2	1	○									
	必修	SEM111	総合情報学基礎演習Ⅰ	2	1	○									
	必修	SEM112	総合情報学基礎演習Ⅱ	2	1		○								
	必修	SEM211	総合情報学演習Ⅰ	2	2	／	／	○							
	必修	SEM212	総合情報学演習Ⅱ	2	2	／	／		○						
	必修	SEM311	総合情報学演習Ⅲ	2	3	／	／	／	／	○					
	必修	SEM312	総合情報学演習Ⅳ	2	3	／	／	／	／		○				
	必修	THE401	卒業研究・制作Ⅰ	4	4	／	／	／	／	／	／	○			卒着条件1を満たしていること
	必修	THE402	卒業研究・制作Ⅱ	4	4	／	／	／	／	／	／		○		卒着条件2を満たしていること、卒業研究・制作は修得済
メディア文化コース 卒業要件：28単位以上，卒着条件1：24単位以上，卒着条件2：26単位以上															
	選択必修	EGI101	コンピュータグラフィックス論	2	1	○									
	選択必修	LIH101	メディア概論	2	1		○								
	選択必修	EGI102	メディア表現論	2	1		○								
	選択必修	EGI103	映像メディア作成技法	2	1		○								
	選択必修	LIH102	文化情報論	2	1		○								
	選択必修	CMS201	マルチメディアシミュレーション論	2	2	／	／		○						
	選択必修	EGI201	コンピュータグラフィックス技法	2	2	／	／	○							
	選択必修	EGI202	映像メディア論	2	2	／	／	○							
	選択必修	EGI203	コンテンツ作成技法	2	2	／	／		○						
	選択必修	WIS201	ネットワークメディア概論	2	2	／	／		○						
	選択必修	SHS201	メディアの歴史	2	2	／	／		○						
	選択必修	DES201	メディアデザイン論	2	2	／	／		○						
	選択必修	ARL201	芸術学	2	2	／	／		○						
	選択必修	SHS202	技術文化史	2	2	／	／	○							
	選択必修	EGI301	コンテンツ作成のためのCG	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	EGI302	コンテンツ作成のためのデータ処理	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	CMS301	マルチメディアシミュレーション技法	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	WIS301	ネットワークメディア技法	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	DES301	デジタルデザイン論	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	DES302	メディアデザイン技法	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	SOC305	メディアプランニング	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	CGS301	言語情報論	2	3	／	／	／	／	○					
	選択必修	CGS302	サイエンスとアート	2	3	／	／	／	／		○				
	選択必修	KAI301	感性学	2	3	／	／	／	／	○					
システム情報コース 卒業要件：8単位以上															
	選択必修	SOF101	入門プログラミング	2	1	○									
	選択必修	SOF102	プログラミング技法Ⅰ	2	1		○								
	選択必修	INN101	ネットワーク通信入門	2	1		○								
	選択必修	EPS101	環境情報学の基礎	2	1	○									
	選択必修	WIS101	サービス情報論	2	1		○								
	選択必修	SOF201	プログラミング技法Ⅱ	2	2	／	／	○							
	選択必修	SOF202	ソフトウェア工学Ⅰ	2	2	／	／	○							
	選択必修	SOF203	ソフトウェア工学Ⅱ	2	2	／	／		○						
	選択必修	COS201	コンピュータアーキテクチャ	2	2	／	／		○						
	選択必修	SOF204	オペレーティングシステム	2	2	／	／	○							
	選択必修	MUD201	データベース	2	2	／	／	○							
	選択必修	THI201	アルゴリズムの基礎	2	2	／	／		○						
	選択必修	DEV201	資源・エネルギーマネジメント論	2	2	／	／	○							
	選択必修	EPS201	CSR論	2	2	／	／		○						
	選択必修	SSE201	社会インフラ論	2	2	／	／	○							
	選択必修	ECM201	グリーンプロダクト	2	2	／	／		○						
	選択必修	CME202	マーケティング実践論	2	2	／	／		○						
	選択必修	SOF301	プロジェクト管理	2	3	／	／	／	／	○					

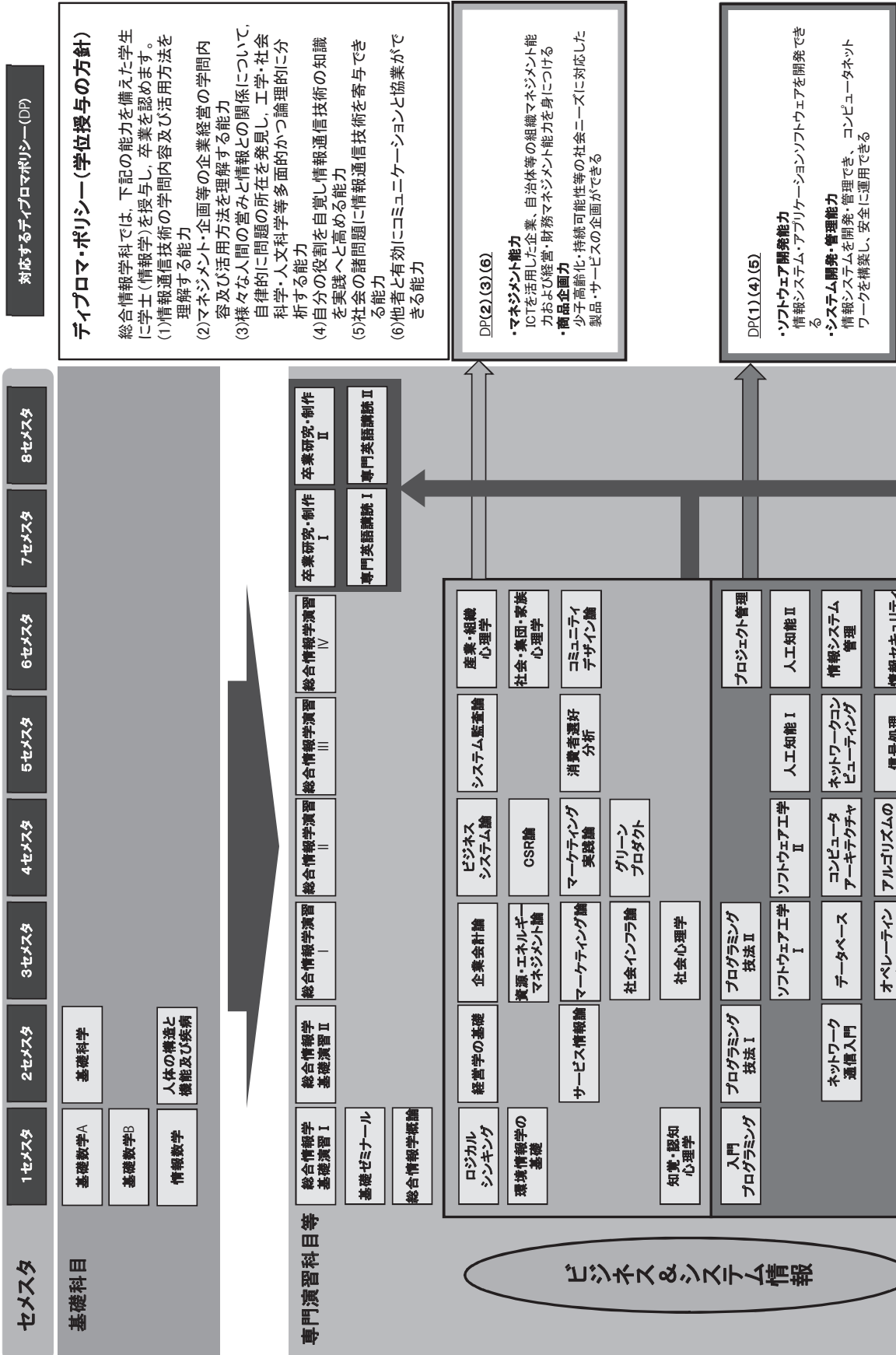
総合情報学科教育課程表 (2019年度入学生用)

ーメディア文化コースー

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考	
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年			
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
専門科目 卒業要件：68 単位以上， 卒着条件 1：36 単位以上， 卒着条件 2：44 単位以上															
システム情報コース (つづき)															
	選択必修	INI301	人工知能 I	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	SCO301	人工知能 II	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	COS301	情報システム管理	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	ISE301	情報セキュリティ	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	HPC301	ネットワークコンピューティング	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	MEE301	信号処理	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	INN301	システム監査論	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	CLD301	コミュニティデザイン論	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	CME301	消費者選好分析	2	3	/	/	/	/	○					
心理・スポーツ情報コース 卒業要件：8 単位以上															
	選択必修	SPS101	スポーツメカニクス入門	2	1		○								
	選択必修	HSS105	スポーツ行動心理学	2	1	○									
	選択必修	HSS106	スポーツ行動心理計測学入門	2	1		○								
	選択必修	CUA101	スポーツの思想と歴史	2	1	○									
	選択必修	HSS107	スポーツと栄養学	2	1		○								
	選択必修	PSY101	心理学概論	2	1	○									
	選択必修	CLI102	臨床心理学概論	2	1		○								
	選択必修	EXP101	心理学実験	2	1		○								
	選択必修	CGS103	学習・言語心理学	2	1		○								
	選択必修	PSY102	感情・人格心理学	2	1	○									
	選択必修	SOP101	健康・医療心理学	2	1	○									
	選択必修	EDP101	教育・学校心理学	2	1	○									
	選択必修	FEN201	スポーツ流体科学入門	2	2	/	/	○							
	選択必修	SPS201	スポーツバイオメカニクス	2	2	/	/		○						
	選択必修	PIP201	身体動作計測	2	2	/	/		○						
	選択必修	SPS202	運動科学/生理学	2	2	/	/		○						
	選択必修	HSS201	スポーツ行動心理計測論	2	2	/	/	○							
	選択必修	HSS202	スポーツ行動心理計測法	2	2	/	/	○							
	選択必修	HSS203	エクササイズ・トレーニングの技術とその指導	2	2	/	/		○						
	選択必修	HSS204	トレーニングにおけるリスクマネジメント	1	2	/	/	○							
	選択必修	HSS205	エクササイズ指導実習	1	2	/	/		○						
	選択必修	PSS201	神経・生理心理学	2	2	/	/	○							
	選択必修	EDP201	発達心理学	2	2	/	/	○							
	選択必修	PSY202	障害者・障害児心理学	2	2	/	/		○						
	選択必修	PSY203	福祉心理学	2	2	/	/		○						
	選択必修	PSY204	司法・犯罪心理学	2	2	/	/		○						
	選択必修	DYC301	スポーツダイナミクス	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	DYC302	身体動作解析	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	KAI302	スポーツ感性商品デザイン	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	HSS301	スポーツパフォーマンス	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	HII301	ヒューマンインタフェース	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	PIP301	スポーツ情報処理論	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	SPS301	スポーツプログラムデザイン	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	PSY301	公認心理師の職責	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	CLI301	心理学的支援法	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	SOP303	精神疾患とその治療	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	POL301	関係行政論	2	3	/	/	/	/	○					
	選択必修	CLI302	心理演習	2	3	/	/	/	/		○				
	選択必修	CLI303	心理実習	2	3	/	/	/	/		○				
教職関係科目															
	選択	POI101	情報処理基礎	2	1-4										
	選択	POI102	情報化社会と倫理	2	1-4										
	選択	POI103	情報化社会と職業	2	1-4										

総合情報学科

7. 総合情報学科カリキュラムマップ (2019年度以降, 公認心理師科目対応)



心理・スポーツ情報

スポーツの思想と歴史	スポーツメカニクス入門	スポーツ流体力学入門	スポーツメカニクス	スポーツバイオメカニクス	スポーツダイナミクス	身体動作解析
スポーツ行動心理学	スポーツ行動心理学入門	スポーツ行動心理学	スポーツ情報処理論	身体動作計測	スポーツ情報処理論	ヒューマンインタフェース
スポーツ行動心理学	スポーツと栄養学	スポーツ行動心理学	スポーツ感性商品デザイン	エクササイズ・トレーニングの技術とその指導	スポーツ商品デザイン	スポーツプログラムデザイン
心理学概論	心理学概論	スポーツ行動心理学計測法	関係行動論	エクササイズ・トレーニングの技術とその指導	エクササイズ指導実習	スポーツパフォーマンス
健康・医療心理学	臨床心理学概論	神経・生理心理学	精神疾患とその治療	運動科学/生理学	司法・犯罪心理学	
教育・学校心理学	学習・言語心理学	発達心理学	心理学的支援法	司法・犯罪心理学	障害者・障害児心理学	心理演習
感情・人格心理学	心理学実験		公認心理師の職業	福祉心理学		心理実習

DP(3)(4)(5)

- ・“物と人”のダイナミクスの解析・活用能力
スポーツ器具・用具を題材にして、それを用いるプレイヤーを含めた分析・解析能力を獲得する
- ・パーソナルトレーナー&メンタルトレーニング
パーソナルトレーナーの資格取得を目指すとともに、心理・生体の両面からアスリートを支援する。メンタルトレーニングの知識・スキルを身につける

DP(3)(6)

- ・公認心理師の取得
心理臨床、カウンセリングに関する心理学を中心に、心理系資格の取得に向けて幅広い知識を習得する
- ・心理学活用能力の習得
心理学の諸領域に関する知識を身に付け、産業、教育、福祉など様々な分野への応用を目指す

メディア文化

メディア概論	コンピュータグラフィックス論	映像メディア作成技法	マルチメディアシミュレーション論	マルチメディアシミュレーション技法	コンテント作成のためのデータ処理	コンテント作成のためのCG	コンテント作成のためのデータ処理
	コンピュータグラフィックス論	グラフィックス技法	コンテント作成技法	コンテント作成技法	デジタルデザイン論	ネットワークメディア技法	デジタルデザイン論
	メディア概論	映像メディア論	メディアデザイン論	メディアデザイン論	メディアデザイン技法	メディアブランニング	メディアデザイン技法
	メディア概論	メディアの歴史	メディアの歴史	言語情報論	サイエンスとアート	芸術学	サイエンスとアート
	文化情報論	技術文化史	技術文化史	感性学			

DP(1)(3)(5)

- ・コンピュータを活用した表現力
コンピュータを用いて様々な事象を表現する技術、メディア・コンテント制作ツールを使いこなす技術を身につける
- ・高度な感性と創造力
文化を創造する営みの本質を捉えるとともに、現代社会におけるメディアの多様な役割と影響力を理解する

社会調査士

社会調査入門	心理的アセスメント	調査実習Ⅰ	調査実習Ⅱ
調査と統計	心理学統計法	多変量解析	
	心理学研究法		

7セメスタ

1セメスタ

2セメスタ

3セメスタ

4セメスタ

5セメスタ

6セメスタ

7セメスタ

8セメスタ

対応するディプロマポリシー(DP)

8. 総合情報学科開講科目一覧

区分		配当学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
				授業科目	授業科目	授業科目	授業科目	
基盤教育	哲学・思想		※ 哲学 ※ 宗教学		※ 倫理学	※ 論理学	※ 井上円了と東洋大学	
	学問の基礎		※ 天文学 ※ 文学 ※ 経済学		※ 環境科学 ※ 歴史学 ※ 社会学	※ 美術史 ※ 言語学 ※ 法学	※ 生物学 ※ 科学史 ※ 政治学	
	国際人の形成	外国語	英語	※ Integrated Practical English I ※ Integrated Practical English II ※ English for TOEIC I ※ English Presentation I		※ English for TOEIC II ※ English Presentation II		
			日本語	【外国人留学生入試入学者のみ】 ※ 日本語 I A ※ 日本語 I B ※ 日本語 II A ※ 日本語 II B		※ 日本語 III A ※ 日本語 III B		
			選択必修		※ Advanced TOEIC I ※ Remedial English I ※ Technical Reading ※ Technical Writing	※ Advanced TOEIC II ※ Remedial English II ※ Academic English ※ Business English		
			選択	※ 英語と文化 ※ 韓国語と文化	※ ドイツ語と文化	※ フランス語と文化	※ 中国語と文化	
			※ 国際キャリア概論 ※ 海外研修 I ※ 短期海外研修 I ※ 短期海外実習 I	※ 留学のすすめ ※ 海外研修 II ※ 短期海外研修 II ※ 短期海外実習 II	※ 海外実習 I ※ 短期海外研修 III ※ 短期海外実習 III	※ 海外実習 II ※ 短期海外研修 IV ※ 短期海外実習 IV		
	キャリア・市民形成		※ 日本国憲法 ※ スポーツ健康科学実技 I ※ スポーツ健康科学講義 (身体の健康)		※ キャリア形成	※ スポーツ健康科学実技 II ※ スポーツ健康科学講義 (心の健康)		
	総合・学際		※ 総合 A ※ 全学総合 I A		※ 総合 B ※ 全学総合 I B	※ 総合 C ※ 全学総合 II A	※ 全学総合 II B	
	留学支援科目	英語特別教育科目	※ English for Academic Purposes A Listening/Speaking ※ Pre-Study Abroad College Study Skills ※ Pre-Study Abroad Academic Essay Writing			※ English for Academic Purposes B Reading/Writing ※ Pre-Study Abroad Basic Academic Writing ※ Business English Communication		
学科共通科目	基礎科目		基礎数学 A 基礎数学 B 基礎科学 人体の構造と機能及び疾病 情報数学				※ 専門英語講読 I ※ 専門英語講読 II	
	ビジネス関係科目		経営学の基礎 ロジカルシンキング 知覚・認知心理学		企業会計論 ビジネスシステム論 マーケティング論 社会心理学	産業・組織心理学 社会・集団・家族心理学		
	社会調査士関係科目		社会調査入門 心理的アセスメント 確率と統計 心理学統計法		心理学研究法 多変量解析	※ 調査実習 I ※ 調査実習 II		

区分		配当学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
		授業科目	授業科目	授業科目	授業科目	授業科目
専 門 科 目	必修	※ 基礎ゼミナール ※ 総合情報学概論 ※ 総合情報学基礎演習 I ※ 総合情報学基礎演習 II	※ 総合情報学演習 I ※ 総合情報学演習 II	※ 総合情報学演習 III ※ 総合情報学演習 IV	※ 卒業研究・制作 I ※ 卒業研究・制作 II	
	システム情報コース	※ 入門プログラミング ※ プログラミング技法 I ネットワーク通信入門 環境情報学の基礎 サービス情報論	※ プログラミング技法 II ソフトウェア工学 I ソフトウェア工学 II コンピュータアーキテクチャ オペレーティングシステム データベース アルゴリズムの基礎 資源・エネルギーマネジメント論 CSR 論 社会インフラ論 グリーンプロダクト マーケティング実践論	プロジェクト管理 人工知能 I 人工知能 II ※ 情報システム管理 情報セキュリティ ネットワークコンピューティング 信号処理 システム監査論 コミュニティデザイン論 消費者選好分析		
	心理・スポーツ情報コース	スポーツメカニクス入門 スポーツ行動心理学 スポーツ行動心理計測学入門 スポーツの思想と歴史 スポーツと栄養学 心理学概論 臨床心理学概論 ※ 心理学実験 学習・言語心理学 感情・人格心理学 健康・医療心理学 教育・学校心理学	スポーツ流体科学入門 スポーツバイオメカニクス ※ 身体動作計測 運動科学/生理学 スポーツ行動心理計測論 スポーツ行動心理計測法 エクササイズ・トレーニングの概論とその監導 トレーニングにおけるリスクマネジメント ※ エクササイズ指導実習 神経・生理心理学 発達心理学 障害者・障害児心理学 福祉心理学 司法・犯罪心理学	スポーツダイナミクス 身体動作解析 スポーツ感性商品デザイン スポーツパフォーマンス ヒューマンインタフェース ※ スポーツ情報処理論 スポーツプログラムデザイン 公認心理師の職責 心理学的支援法 精神疾患とその治療 関係行政論 ※ 心理演習 ※ 心理実習		
	メディア文化コース	コンピュータグラフィックス論 メディア概論 メディア表現論 映像メディア作成技法 文化情報論	マルチメディアシミュレーション論 コンピュータグラフィックス技法 映像メディア論 コンテンツ作成技法 ネットワークメディア概論 メディアの歴史 メディアデザイン論 芸術学 技術文化史	コンテンツ作成のための CG コンテンツ作成のためのデータ処理 マルチメディアシミュレーション技法 ネットワークメディア技法 デジタルデザイン論 メディアデザイン技法 メディアプランニング 言語情報論 サイエンスとアート 感性学		
	教職関係科目	※ 情報処理基礎	※ 情報化社会と倫理 ※ 情報化社会と職業			

科目名の前に「※」が付されている科目は、卒業再試験対象外の科目です。

9. 大学院開講科目履修制度について

大学院開講科目履修制度について

総合情報学部では、大学院総合情報学研究科との連携を強め、大学院への進学を希望する学生に対して学部の時から専門的な学修の継続を図ることを目的として、総合情報学部3年次以降に大学院開講科目を履修できる「大学院開講科目履修制度」を導入しています。本制度の概要は以下のとおりですので、希望する学生は下記の事項をよく読んで必要な手続きをしてください。

1. 制度の概要

- (1) 本制度は、総合情報学部3年次以降に本学大学院総合情報学研究科の開講科目を履修できる制度です。
- (2) 本制度により修得した単位は、本学大学院総合情報学研究科博士前期課程に入学時に、所定の手続きを取ることににより、大学院の単位として10単位を上限に認定されます。
- (3) 本制度を利用できるのは下記の項目を満たす者とします。
 - ① 本制度を利用する当該セメスターに総合情報学部に在学していること。
 - ② 総合情報学部卒業後直ちに、大学院総合情報学研究科博士前期課程に進学する意志があること。
 - ③ セメスターごとの卒業要件単位数の履修・修得条件等については以下のとおり。
 - ・第5セメスターに履修する場合は、卒業要件単位数74単位以上修得していること。
 - ・第6セメスターに履修する場合は、卒業要件単位数84単位以上修得していること。
 - ・第7セメスターに履修する場合は、卒着条件1を満たし、かつ、卒業要件単位数94単位以上修得していること。
 - ・第8セメスターに履修する場合は、卒着条件2を満たし、かつ、卒業要件単位数110単位以上修得し、かつ卒業要件単位数を満たす履修登録をしていること。
 - ④ 卒業関係科目指導教員もしくは所属学科教員の所見があり、学科長の推薦があること。
 - ⑤ 受講科目担当教員の承諾を得ていること。
- (4) 本制度で履修できる大学院の科目は、当該セメスターに大学院総合情報学研究科博士前期課程で開講されている講義科目とし、対象講義科目については、別途4号館1階教学課前掲示板ならびにToyoNet-Gにて掲示します。ただし当該科目を履修する大学院生がない場合、受講科目担当教員の履修許可を得ていても履修できません。
- (5) 本制度により履修する科目は、学部では自由科目として取り扱い、単位を修得した場合でも、学部卒業時の卒業要件単位数には含めません。また、1セメスターの履修登録単位数制限（24単位）の範囲内とします。
- (6) 本制度で履修することができる科目数は、在学中に10単位以内とします。
- (7) 本制度により修得した科目の評価は、学部の成績原簿、成績表、成績証明書に記載します。学生は総合情報学研究科入学時に、その記録を添えて単位認定の申請ができます。
- (8) 大学院入学年度の所属専攻の課程表に科目がない場合は、申請者の研究領域との関連を考慮して単位認定の可否を研究科委員会で判断します。
- (9) 本制度は、学部卒業後直ちに総合情報学研究科へ進学する方が単位認定の対象となります。

2. 申し込み手続きについて

「大学院開講科目履修制度」申し込み用紙に必要事項を記入の上、当該セメスターの受付期間に教学課窓口にて提出してください。受付期間は教学課窓口にて配布する申し込み用紙で確認してください。

10. 東京外国語大学との単位互換制度について

東京外国語大学との単位互換制度について

東洋大学では語学科目を中心とした多様な学習機会を拡充することを目的として、2018年度より、東京外国語大学との間において単位互換協定を締結しました。これに伴い、東京外国語大学の授業の一部を履修することが可能になりました。

ここでは、東京外国語大学の科目を履修するにあたっての条件、履修方法などを規定しています。詳細は、東京外国語大学の履修要覧・シラバスを参照するとともに、所属学部教務担当課までお問合せください。

関連HP

<https://gakumu-web1.tufs.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx>

履修申請要領等

対象学生

学部2年次以上（ただし、原則、卒業予定の学期の履修はできません。）

履修可能単位数

学期の履修単位数の制限内かつ、本学以外の大学等で取得可能な単位数上限は60単位（入学前の単位認定も含む）。

学籍の取扱い

東京外国語大学では「特別聴講学生」として在籍することになります。

開講キャンパス

東京外国語大学府中キャンパス（所在地：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1）

履修可能科目

所属学部教務担当課で確認してください。ただし、都合によって履修可能科目が変更になることがあります。また、本学と東京外国語大学双方の曜日時限が重複する科目や移動時間も含めて授業開始時刻に間に合わない科目を履修することはできません。

履修手続

- ①「特別聴講学生願書」を所属学部教務担当課窓口で受け取り、所定の期間内に所属学部教務担当課窓口へ提出してください。
- ②提出された「特別聴講学生願書」をもとに、東京外国語大学が受講の可否を決定します。
- ③第1回目の講義に出席し、東京外国語大学の授業担当教員へ東洋大学の学生である旨と聴講申請手続き中である旨、申し出てください。
- ④受講の正式な可否については、ToyoNet-Gにてお知らせを配信しますので、確認のうえ、受講可の学生は東京外国語大学で所定の手続を行ってください。

試験

東京外国語大学の制度によります。追・再試験は原則行いません。

単位認定

東京外国語大学からの成績到着後、当該科目の単位の認定を希望する場合は、所属学部教務担当課窓口まで、「単位認定申請書」を提出してください。単位認定の可否については、教授会での審議を経て決定されます。申請が認められる場合は「T」評価として認定します。

※東京外国語大学入構時には本学の「学生証」を必ず携帯し、東洋大学の学生であることを示すこと。その他、東京外国語大学の学則に従い、規律ある行動をとること。

Ⅲ. 教職課程について

1. 教育職員免許状取得について（2019年度入学生用）

教職課程を学ぶにあたって

東洋大学教職センター長

本学の学祖井上円了は哲学館の創設にあたり「諸学の基礎は哲学にあり」の理念の下、「先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方、論理的・体系的に深く考える人間」「社会の課題に自主的・主体的に取り組み、よき人間関係を築いていける人間」の育成をめざした。そして特に「教育家と宗教家」の養成に力を入れた。このように本学は創設以来、教員養成を重視し、この分野の伝統と実績を有する大学であり、多くの卒業生が教員として全国の学校で活躍している。

これから教職課程を履修し、教員免許状を取得して教員になろうと志す学生にはまずこのことをしっかりと自覚してほしい。

言うまでもなく、教員になるためには教員免許状の取得が必要である。免許状の取得に関する諸事項は教育職員免許法に定められており、本学もこれに基づいて教職課程教育を実施している。

教職課程に属する科目の多くは、各学科の卒業に必要な科目とは別に履修し単位を修得しなければならない。従って、教職課程を履修する学生は、他の学生よりも多くの科目を履修しなければならない。学修に費やす時間もそれだけ多くなる。1年次からの計画的な履修と学修が求められる。その詳細については、教職課程ガイダンスに参加して説明を聞くとともに、この「履修要覧」を熟読してほしい。

教員になるためには、担当する教科に関する知識を豊富に持つことが必要になることは言うまでもない。しかしそれだけでは教員として十分とは言えない。教員は成長・発達の途上にある児童・生徒を指導し、ともに学ぶ存在である。教員の言動は、時として、子どもの将来を大きく左右することもある。その意味で教員というのは恐ろしい職業である。しかし同時に教員は子どもの成長を直接目にし、それを助け、ともに喜び合えるやりがいのある職業でもある。

ある教育学者が次のようなことを問うている。「あなた（教員）は何の権利があって他人の子どもを教育するなどという大それたことができるのか」。

この問いに答えることは簡単ではない。しかし「他人の子ども」を教育するという「大それた事」を職業とすることを、子どもから、保護者から、そして社会から、許されるだけの準備を大学生活のなかですておくことが、教員をめざす学生の最低限の義務である。

教員をめざす学生には、大学の授業で学ぶことはもちろん、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイトなど、さまざまな経験をしながら、自分自身を成長させることを期待したい。豊かな人間性を持った信頼に足る教員をめざしてほしい。

(1) 教育職員免許状取得条件について

次の表は教育職員免許状を取得するための基礎資格と教育職員免許法及び同法施行規則における最低単位数を示したものです。表にあるように基礎資格として「学士の学位を有すること」（卒業に必要な単位を修得すること）が要求されています。教育職員免許状取得のための単位は修得できたものの卒業できなかったということにならないよう、4年間の履修計画をしっかりと立てることが重要となります。大学はこの法律に基づいて、免許状取得に必要な科目を開講しています。本学で開講している科目は、「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」「免許法施行規則第66条の6に定める科目」の頁で確認してください。

※教育職員免許状を取得するのに必要な科目は、4年間で履修かつ修得できるように配置されているため、4年間の履修計画を入念に立て、1年次より必要な科目を履修かつ修得することが重要です。2年次ないし3年次から取得を目指しても4年次終了（卒業）までに教育職員免許状を取得することは難しいため注意してください。

基礎資格と最低修得単位数（免許法第5条別表第1，免許法施行規則第5条）

免許状の種類	基礎資格	免許法における最低修得単位数					
		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目
高等学校教諭 1種免許状	学士の学位を有すること	24	10	8	5	12	8

(2) 教育職員免許状教科について

総合情報学部で取得できる教育職員免許状は、高等学校1種免許状の「情報」です。

(3) 教職課程登録料について

本学では、通学課程の学部学生及び大学院生が教職課程の履修を希望する場合、教職課程登録料が必要となります。所定の期日までに指定された方法で納入してください。

なお、登録料の区分、徴収対象、徴収額および有効期間は以下の通りとなります。

	区分	徴収対象	徴収額	有効期間
教職課程登録料	在籍生登録料	東洋大学教職課程の履修を希望する通学課程の学部生及び大学院生	30,000円	・学部生は、納入時から卒業年度の3月31日(秋学期卒業生を含む。ただし、春学期卒業生は9月30日)まで。 ・大学院生は、納入時から修了年度の3月31日(秋学期修了生を含む。ただし、春学期修了生は9月30日)まで。
	卒業生等登録料	東洋大学の卒業生及び大学院修了生(ただし、退学者及び除籍者を含む。)で、教職支援室の利用等(教職に関するセミナー等への参加を含む。)を希望する者	5,000円 (ただし、秋学期からの場合は当該年度のみ2,500円とする。)	納入年度の3月31日まで。

※再入学した学生のうち、在籍時に教職課程登録料を納入している場合は、再度の納入は必要ありません。

(4) 2019年度入学生 教職課程履修方法

① 教科及び教科の指導法に関する科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」については、免許法施行規則に指定された科目に基づいて、本学が開講している授業科目から所定の科目を選択履修し、免許法の規定により最低修得単位を修得しなければなりません。卒業に必要な科目と重複している場合は、改めて履修する必要はありません。

教科「情報」の場合（高等学校1種）

「情報」の免許状を取得しようとする者は、「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「教育の基礎的理解に関する科目」等において、それぞれ定める最低修得単位数を充足させる必要があります。

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
情報社会及び情報倫理	2単位	情報化社会と倫理	1～4	2	必修
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	6単位	入門プログラミング	1	2	必修
		プログラミング技法Ⅰ	1	2	必修
		プログラミング技法Ⅱ	2	2	必修
		アルゴリズムの基礎	2	2	選択必修
		コンピュータアーキテクチャ	2	2	選択必修
		オペレーティングシステム	2	2	選択必修
情報システム（実習を含む。)	4単位	データベース	2	2	必修
		ソフトウェア工学Ⅰ	2	2	必修
		ソフトウェア工学Ⅱ	2	2	選択必修
		プロジェクト管理	3	2	選択必修
		情報システム管理	3	2	選択必修
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	4単位	ネットワーク通信入門	1	2	必修
		ネットワークコンピューティング	3	2	必修
		情報セキュリティ	3	2	選択必修
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	4単位	メディア表現論	1	2	必修
		コンテンツ作成のためのCG	3	2	必修
		人工知能Ⅱ	3	2	選択必修
		信号処理	3	2	選択必修
		コンテンツ作成のためのデータ処理	3	2	選択必修
		ヒューマンインタフェース	3	2	選択必修
情報と職業	2単位	情報化社会と職業	1～4	2	必修
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	4単位	情報科指導法Ⅰ	3	2	必修
		情報科指導法Ⅱ	3	2	必修
小計	34単位	-	-	-	

※必修科目 26 単位のほかに選択必修科目の中から 8 単位以上修得していなければなりません。

② 教育の基礎的理解に関する科目等

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
教育の基礎的理解に関する科目	12 単位	教育基礎論	1	2	必修
		教職概論	1	2	必修
		教育制度論	1	2	必修
		教育心理学	2	2	必修
		特別支援教育基礎論	1	2	必修
		教育課程論	1	2	必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8 単位	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1	2	必修
		教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	3	2	必修
		生徒指導論（進路指導論を含む）	2	2	必修
		教育相談	2	2	必修
教育実践に関する科目	5 単位	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	4	3	必修
		教職実践演習（中・高）	4	2	必修
小計	25 単位	—	—	—	—

③ 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
大学が独自に設定する科目	—	道徳教育論	2	2	
小計	—	—	—	—	

合計	59 単位	①, ②, ③の合計で 59 単位を修得すること。			
----	-------	---------------------------	--	--	--

④ 免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許状希望者は、いずれの校種、教科を取得する場合においても、「日本国憲法」（2 単位）、「スポーツ健康科学実技Ⅰ」（1 単位）、「スポーツ健康科学実技Ⅱ」（1 単位）、「情報処理基礎」（2 単位）、「English PresentationⅠ」（1 単位）、「English PresentationⅡ」（1 単位）は必ず修得しておかなければなりません。

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	単位数	履修方法
日本国憲法	2 単位	日本国憲法	1～4	2	必修
体育	2 単位	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1～4	1	必修
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1～4	1	必修
外国語コミュニケーション	2 単位	English PresentationⅠ	1	1	必修
		English PresentationⅡ	2	1	必修
情報機器の操作	2 単位	情報処理基礎	1～4	2	必修

2. 教育実習

(1) 「教育実習Ⅱ」について

教育実習は教育実践に関する科目であり、東洋大学が開講している科目です。したがって、東洋大学が責任を持ってその教育を行い、単位認定をするものです。

ところが、教育実習は科目の性格上、その主要な部分（学校現場における実習）を教育実習校に委託して指導をしていただくこととなります。実際には教育実習校という特別な学校があるわけではなく、そこに勤務している先生にとっては職場であり、1年間の綿密な教育計画に基づいて、毎日生徒の教育活動が継続的に行われている普通の学校です。

そういう貴重な教育の場をお借りして実習をさせていただくのですから、生徒や学校に迷惑をかけないように万全の準備をして実習に臨まなければなりません。

高等学校教諭1種免許状を取得する場合は2～3週間の実習が必要となります。教育実習参加条件や手続、日程等は、下記(2)、(3)を参照すること（詳細についてはガイダンスで説明するので教職関係掲示板（4号館1階教学課前）ならびにToyoNet-ACEのお知らせを必ず確認してください）。

(2) 教育実習参加の条件

教育実習は基本的に4年次において履修しますが、3年次終了までに下記の条件を満たしていなければなりません。

①2019年度入学生

a. 卒業に必要な単位数を100単位以上修得していること。

b. 教育の基礎的理解に関する科目等必修科目の

「教職概論」	「教育基礎論」	「教育心理学」
「教育制度論」	「教育課程論」	「特別支援教育基礎論」
「特別活動と総合的な学習の時間の指導法」	「教育方法論」	「生徒指導論」
「教育相談」		

をすべて修得済であること。

c. 教科及び教科の指導法に関する科目のうち

<情報>

「情報化社会と倫理」	「入門プログラミング」	「プログラミング技法Ⅰ」
「プログラミング技法Ⅱ」	「データベース」	「ソフトウェア工学Ⅰ」
「ネットワーク通信入門」	「ネットワークコンピューティング」	「メディア表現論」
「コンテンツ作成のためのCG」	「情報化社会と職業」	「情報科指導法Ⅰ・Ⅱ」

をすべて修得済であること。

また、学業成績その他からみて教科に関する学力や性行上、教育職員として適格性を欠くと本学において判定された者についても実習参加を認めません。これらの判定のために、「教職パスポート」を活用し、教育実習の実施に先立って、学力検定、面接等を行う場合もあります。

教育実習は、各自が責任をもって実習校を開拓（母校など）することとなります。実習校の内諾を得ることができなかった者、教育実習に関する所定の手続をしていない者、教育実習費を納入していない者も、教育実習への参加を認めません。また、妊娠中もしくは出産して1年以内の場合は、母体保護のため、教育実習の参加はできません。

（なお、疾病既往症等身体上の条件によって、教育実習への参加が認められない場合があり、更に教育職員としての就職も適切でないと判断される場合があるので、教職課程を履修するにあたって、十分にこの点を考慮してください。）

(3) 教育実習に関する手続および日程

教育実習に関する手続は、すべて本学の窓口を通して行います。教育実習に参加しようとする者は、教職関係掲示板（4号館1階教学課前）ならびにToyoNet-ACEに掲示される要領にしたがって、遺漏のないように手続をしなければなりません。詳細は「4. 教育職員免許状取得までの流れ（スケジュール）」(P.52)を確認してください。

大体の日程は下記の通りです。

① 教育実習の登録（3年次4月上旬）

教育実習を希望する者は、3年次4月の教職ガイダンスで配布する「教育実習登録票」「教育実習予定校届」を指定期間に必ず提出してください。登録しない者は教育実習を行うことはできません。

- ② 教育実習費の納入（4年次4月中旬）
 所定の教育実習費を納入してください。
- ③ 教育実習者決定（4年次4月中旬）
 教育実習参加の条件をすべて満たした者に対して教育実習が決定します。
 なお、申請手を怠ったり、ガイダンス等を無断欠席した者は実習への参加を一切認めません。

3. 免許状の申請および教員採用について

(1) 教育職員免許状一括申請について

本学では、4年次生で、卒業と同時に所定の基礎資格を取得し、かつ、所定の単位を修得した教職課程履修者に対し、授与権者（埼玉県教育委員会）と協力し、一括して事前審査を受け、「教育職員免許状」の授与を受ける制度を採用しています。

本来、各人が卒業後、その居住する都道府県の教育委員会に申請をして「教育職員免許状」の授与を受けるものですが、卒業と同時に教職につくことが予定される学生等のための便宜的な措置であるとともに、授与権者側としても、卒業時の大量の「教育職員免許状授与願」を能率的に処理しなければならない事務上の要請から、学校ごとに取りまとめ審査し、免許状を授与する制度です。

一括申請の場合に採用試験の出願書類等に記入する免許状授与日は3月31日となります。

(注) 教育職員免許状の授与証明書の発行は授与権者（教育委員会）にて行うので一括申請にて免許状を取得した場合、埼玉県教育委員会へ申請し証明書の発行を受けてください。

(2) 教員採用試験について

教育職員免許状を取得（見込）した者が教員になるためには、まずは教員採用試験に合格する必要があります。出願期間・受験条件・試験日程・試験方法は教育委員会・学校によって異なりますので、各自で実施要綱等を確認し、教員採用試験を受験してください。

※高等学校1種免許状「情報」のみの取得（見込）では、教員採用試験の受験資格として認められない教員委員会（例：東京都・埼玉県）があります。教員採用試験を受験するには、受験可能な教育委員会・学校を探るか、総合情報学科卒業後に、「情報」以外の教科（科目）の高等学校1種免許状を取得する必要があります。

※教員採用試験等で、受験する教科（科目）の中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状の取得（見込）していることが、採用試験受験の条件としている場合（例：東京都）があるため、できる限り中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状の取得を目指してください。

① 公立学校の教員採用

公立学校の教員になるためには、各都道府県または市の教育委員会が実施する教員採用試験に合格し、採用候補者の名簿に登録される必要があります。名簿の中からその年度の欠員状況、教員組織の状況などを考慮して選定され、採用が決定されることが通例です。名簿に登録されている期間は1年間であり、それ以降は無効となるため、合格者であっても全員が教員になれない場合もあります。

② 私立学校の教員採用

各私立学校独自の公募制による採用と、各都県の私学協会等が実施する「私立学校教員適性検査」を基に採用を行う場合があります。

「私立学校教員適性検査」は採用試験ではなく、適性検査を受けた受検者の氏名と評価等が記載された名簿を基にして、教員の採用を行うものです。すべての都道府県で実施しているものではないことと、検査を実施する都県にある私立学校全てが「私立学校教員適性検査」の結果を基に教員募集を行っているとは限らないため、採用を希望する学校の採用方法を各自で確認する必要があります。

(3) 介護等体験について

小・中学校の教員志望者に介護等の体験を義務付ける法律が平成9年6月に成立し、平成10年4月1日以降の大学等入学者から、小・中学校の教員の免許状取得希望者は、社会福祉施設、特別支援学校などで、7日以上、高齢者や障害者に対する、介護、介助、交流等の体験を行うことが必要となりました。

この体験を行うには、大学を通して申し込みをしなければなりません。総合情報学科卒業後、小・中学校の

教育職員免許状の取得を考えている方は、総合情報学科在学中に川越キャンパスで実施している介護等体験に参加することが必要です。2年次からガイダンスや手続き等が実施されます。詳細については、教職関係掲示板（4号館1階教学課前）もしくは教学課にて確認してください。

(4) 教職に関する就職支援について

教職支援室（1号館1階）において、以下のような支援を行います。

- ・教員採用試験対策講座
- ・模擬試験関連情報提供・模擬面接
- ・専門スタッフによる教育職員希望者への就職指導
- ・教職関連資料（参考書、雑誌、教科書、学習指導案など）の閲覧

教員採用試験対策講座のスケジュールについては、ToyoNet-ACEや教職関係掲示板にてお知らせします。

(5) 教員免許状更新制について

教員免許状は10年間の有効期限が設けられており、10年ごとに30時間の免許状更新講習（筆記試験、実技試験等を含む）を受け、修了認定されることによって有効期間が更新されます。免許状を持っているが教育の職に就いていない者（いわゆるペーパー・ティーチャー）は免許状更新講習を受講することはできません。したがって、教職に就かないまま10年を過ぎると免許状が無効になります。ただし、ペーパー・ティーチャーであった者が教職に就く見通しが立った場合には、講習を受けて修了を認定された後、免許状の再交付を受けることができます。

教職課程の履修に際しては、教育職員免許状の制度が大きく変わったことをよく理解して、自分自身の教職に対する意志を再確認してください。

4. 教育職員免許状取得までの流れ（スケジュール）

このスケジュールはあくまでも予定のため、時期が多少前後することがあります。必ず教職関係掲示板を確認してください。また、このスケジュールはモデルケースですが、実習時期や教育職員免許状取得時期が遅れる場合は、事前に教学課に相談してください。

特記事項	免許種別	手続内容
参加必須…該当者は必ず参加 締切厳守…提出物を必ず期限内に提出	高…高等学校教諭1種希望者	実…教育実習（高等学校） 演…教職実践演習 申…一括申請

学年	月	内 容	特記事項	免許種別	手続内容
1年	11月上旬	「教職パスポート」説明会の掲示		高	演
	12月上旬	「教職パスポート」説明会 (教職パスポート配付, 教職課程料)	参加必須	高	演
	1月～3月	教職課程登録料の納入	締切厳守	高	
2年	12月下旬	「教職パスポート」中間点検説明会の掲示		高	演
	1月上旬	「教職パスポート」中間点検説明会 (中間点検記入の注意事項)	参加必須	高	演
	1月下旬	「教職パスポート」回収【中間点検記入後】 次年度教育実習事務手続ガイダンスの掲示	締切厳守	高	演 実
3年	4月上旬	教育実習事務手続ガイダンス 次年度教育実習予定校確保（内諾）について	参加必須	高	実
		教育実習登録票の提出	締切厳守	高	実
	4月以降	教育実習校への内諾依頼 (各自出身校等へ次年度実習の依頼に行くこと)		高	実
		教育実習受入内諾書の確認（東京都公立学校以外）		高	実
	9月中旬	教育実習希望調書の提出（東京都公立学校）	締切厳守	高	実
	12月	教育実習校の発表（東京都公立学校） 東京都公立学校での実習希望者は掲示にて確認		高	実
1月下旬	次年度教育実習直前ガイダンスの掲示		高	実	
4年	4月上旬	教育実習直前ガイダンス (実習直前の心構え, 実習上の注意事項, 実習校持参書類の配付, 教育実習承諾書確認)	参加必須	高	実
	4月中旬	教育実習料の納入	締切厳守	高	実
	5月以降	教育実習<注1>	参加必須	高	実
	実習終了後1ヵ月以内	教育実習日誌の提出	締切厳守	高	実
	9月下旬	教育職員免許状一括申請説明会の掲示		高	申
	10月上旬	教育職員免許状一括申請説明会	参加必須	高	申
		申請免許状の申込<注2> 【免許状記載内容の最終確認, 埼玉県教育委員会に提出する書類の署名・捺印, 申請料の納入】	締切厳守	高	申
	3月上旬	単位充足者発表 成績表確認		高	
卒業式当日	教育職員免許状授与（交付）	印鑑を持参すること	高		

※ガイダンスを無断で欠席したり、手続きを怠ったりすると、教育実習に参加できなくなりますので、教職関係掲示板・履修要覧の日程をよく確認してください。

また、教育実習の内諾後のキャンセルや、一度納入した実習費の返金は一切できませんのでご注意ください。

<注1>教育実習の実習時期は各実習校によって異なるので、各自が承諾書等で必ず確認してください。

<注2>9月卒業生・科目等履修生は一括申請対象外のため、個人で教育職員免許状を申請してください。

個人で申請する際、申請先は住民票を置いている都道府県の教育委員会となります。

IV. 諸資格について

1. NSCA-CPT とは

「NSCA Certified Personal Trainer : NSCA-CPT (NSCA 認定パーソナルトレーナー)」は、個別のアプローチを用いて、クライアントの健康と体力のニーズに関して、評価、動機付け、教育、トレーニングやコンディショニング全般の指導を行う優れた専門的能力をもつ人材を認定する資格です。NSCA-CPT は、アスリートだけでなく、年齢・性別・経験を問わず幅広い層に対してトレーニング指導を行います。そのため、NSCA-CPT はトレーニングの知識に加え、医学的、運動生理学的な専門知識とトレーニングの指導技術が必要となります。パーソナルトレーナーのほか、フィットネスインストラクターやスポーツ指導者などがこの資格を取得しています。

2. CSCS とは

「Certified Strength & Conditioning Specialist : CSCS (認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト)」は、傷害予防とスポーツパフォーマンス向上を目的とした、安全で効果的なトレーニングプログラムを計画・実行する知識と技能を有する人材を認定する資格です。指導対象は主にアスリート、スポーツチームです。

筋力トレーニングや他の体力要素の指導だけでなく、施設を運営、管理することも重要な職務となります。

また、栄養、ドーピング、生活習慣に関する指導など、教育者の側面も併せ持っています。

ストレングスコーチ、アスレティックトレーナー、パーソナルトレーナー、医師、フィットネスインストラクター、研究者などが CSCS の資格を取得しています。

東洋大学総合情報学部は NSCA ジャパン認定校です。

下記科目を修得することで、NSCA-CPT と CSCS の資格認定試験を特別な条件で受験することができます。

科目名	配当学年	単位数	NSCA-CPT	CSCS
人体の構造と機能及び疾病	1	2	○	○
運動科学/生理学	2	2	○	—
スポーツと栄養学	1	2	○	○
スポーツプログラムデザイン	3	2	○	○
身体動作解析	3	2	○	○
エクササイズ・トレーニングの技術とその指導	2	2	○	○
スポーツ行動心理計測学入門	1	2	—	○
スポーツ行動心理計測法	2	2	—	○
スポーツ行動心理計測論	2	2	○	—
トレーニングにおけるリスクマネジメント	2	1	○	○
スポーツパフォーマンス	3	2	○	○
エクササイズ指導実習	2	1	○	○
スポーツ行動心理学	1	2	○	—

[試験についての問い合わせ先]

特定非営利活動法人 NSCA ジャパン

http://www.nsca-japan.or.jp/04_certif/certification.html

3. 公認心理師とは

公認心理師は公認心理師法に基づく心理職の国家資格です。

公認心理師法には以下のように規定されています。

(公認心理師法第2条より抜粋)

保健医療，福祉，教育その他の分野において，心理学に関する専門的知識及び技術をもって，次に掲げる行為を行うことを業とする者をいう。

- ①心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し，その結果を分析すること。
- ②心理に関する支援を要する者に対し，その心理に関する相談に応じ，助言，指導その他の援助を行うこと。
- ③心理に関する支援を要する者の関係者に対し，その相談に応じ，助言，指導その他の援助を行うこと。
- ④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。

4. 公認心理師になるには

公認心理師試験の受験資格を取得し，公認心理師試験に合格する必要があります。

公認心理師試験の受験資格を取得するためには，下表の科目を全て修めて総合情報学部を卒業した上で，以下①か②の条件を満たす必要があります。

- ①大学院において，公認心理師法施行規則第2条で定める「大学院における公認心理師となるために必要な科目」を修めてその課程を修了する。
- ②公認心理師法施行規則第5条で定める施設において，同第6条で定める期間（2年）以上，所定の業務に従事する。

※公認心理師法では，大学・大学院において科目を修めてから卒業・修了することが要件とされており，卒業後に科目等履修制度を活用して履修した科目は受験資格の要件として認められませんので，必ず在学中に単位を修得してください。

公認心理師法施行規則に定める大学における公認心理師となるために必要な科目	総合情報学部開講科目	配当学年	単位数	履修方法等
公認心理師の職責	公認心理師の職責	3	2	必修
心理学概論	心理学概論	1	2	必修
臨床心理学概論	臨床心理学概論	1	2	必修
心理学研究法	心理学研究法	2	2	必修
心理学統計法	心理学統計法	1	2	必修
心理学実験	心理学実験	1	2	必修
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	1	2	必修
学習・言語心理学	学習・言語心理学	1	2	必修
感情・人格心理学	感情・人格心理学	1	2	必修
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	2	必修
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	3	2	必修
発達心理学	発達心理学	2	2	必修
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	2	必修
心理的アセスメント	心理的アセスメント	1	2	必修
心理学的支援法	心理学的支援法	3	2	必修
健康・医療心理学	健康・医療心理学	1	2	必修
福祉心理学	福祉心理学	2	2	必修
教育・学校心理学	教育・学校心理学	1	2	必修
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	2	必修
産業・組織心理学	産業・組織心理学	3	2	必修
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	1	2	必修
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	3	2	必修
関係行政論	関係行政論	3	2	必修
心理演習	心理演習	3	2	必修
心理実習	心理実習	3	2	必修 (80時間以上の実習)

V. 国際交流プログラムについて

1. Toyo Global Leader (TGL) プログラム

TGLプログラムは、東洋大学生が国内外で活躍できるグローバル人材となるために、「異文化環境における英語運用表現能力」、「文化的な価値創造能力」、「異文化環境における課題解決能力」の3要素を強化することを目的としています。これらの目的に沿って、「Gold」「Silver」「Bronze」のランクごとに7つの認定要件を定め、各要件を満たした学生をToyo Global Leaderとして認定します。

認定要件

下記のとおり、ランクごとに認定要件が設定されています。

認定要件	TGL Gold	TGL Silver	TGL Bronze
(1) 英語能力 (TOEIC®L&R)	730点	590点	—
(2) 外国語による授業科目の修得	40単位	20単位	10単位
(3) 外国語による論文等執筆	必須	—	—
(4) 海外留学・インターンシップ	必須	どちらかを 必須	—
(5) 海外アクティビティ	必須		—
(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ	必須 (運営)	必須 (参加)	必須 (参加)
(7) Toyo Global (TG) ポイント	30ポイント	20ポイント	10ポイント

認定要件について

(1) 英語能力

英語資格試験のスコアにより認定します。TOEIC®L&R (公開テストおよびIPテスト)のほか、TOEFL iBT®, TOEFL ITP®, IELTS™のスコアをTOEIC®L&Rスコアに換算します。なお、スコアは在学中に受験したものに限りします。

(2) 外国語による授業科目の修得

開講言語が外国語の授業科目および基盤教育の語学科目の修得単位数を加算していきます。また、海外留学や海外インターンシップ等により認定された科目の単位数も加算できます。

(3) 外国語による論文等執筆

下記a.b.c.のいずれかに当てはまる論文等を執筆し、a.b.については、指導教員の確認書と共に提出することで認定します。

a. 言語を問わず執筆した卒業論文等の英文要旨もしくは英語で執筆した卒業論文等

b. 授業内で各言語 (日本語を除く) により作成し提出された論文等

※外国人留学生については日本語 (ネイティブ言語以外) での執筆も認める。

c. 国際教育センターで設定したテーマに基づいた英語の課題論文

(4) 海外留学・インターンシップ

海外での活動が連続で3週間 (現地入国から出国までが21日間) 以上の留学やインターンシップを対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(5) 海外アクティビティ

上記(4)に該当しない、海外での活動が連続で1週間 (現地入国から出国までが7日間) 以上の留学、研修、インターンシップ、ボランティア等の活動を対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ

本学で実施する「東洋グローバルリーダーキャンプ」への参加 (または運営チームとしての参加) により認められます。

(7) Toyo Global (TG) ポイント

国内外の国際交流活動 (海外留学、インターンシップ、ボランティア、国際シンポジウム等) および課外語学講座等への参加がポイントの対象となります。ポイントは各活動期間に応じて付与します。

TGLプログラムの仕組み

一度の取り組みで複数の認定要件に当てはまる場合があります。

<例>

東洋グローバルリーダーキャンプに参加した。

認定要件	結 果
(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ	⇒ 認定（参加）
(7) Toyo Global (TG) ポイント	⇒ 2ポイント付与

<例>

交換留学で1年間海外渡航（TOEFL ITP[®]550点を保有）。

留学先で英語による専門科目5科目を修得，東洋大学で5科目×2単位=10単位が認定された。

また，留学中1週間のボランティア活動に従事し，「短期海外実習 I」（1単位）が認定された。

認定要件	結 果
(1) 英語能力	⇒ 認定（TOEIC [®] L&R730点に換算）
(2) 外国語による授業科目の修得	⇒ 11単位加算
(4) 海外留学・インターンシップ	⇒ 要件クリア
(5) 海外アクティビティ	⇒ 要件クリア
(7) Toyo Global (TG) ポイント	⇒ 35ポイント付与

プログラムの詳細はToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS（国際交流情報）」

コース内，「東洋グローバルリーダープログラム」を確認してください。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577



【TGLプログラムについての問合せ先】

国際部〔国際教育センター〕（白山キャンパス 8号館1階）

Tel : 03-3945-7827

E-mail : ml-tgl@toyo.jp

2. 国際教育センター 海外留学・研修プログラム

(1) 海外留学・研修プログラムの概要

本学では、休学することなく参加できる海外留学・研修プログラムを豊富に用意しています。
プログラムの概要は以下のとおりです。

プログラム名	①交換留学	②認定留学	③協定校 語学留学	④語学セミナー	⑤海外 インターンシップ・ ボランティア	⑥国連 ユースボランティア ・ワシントンセンター	⑦Diversity Voyage	⑧日本語 パートナーズ
留学形態	学部留学 ^{*1}		語学留学 ^{*2}		—	—	—	—
期間	1学期または1年 ^{*3}		3～6ヶ月	3～4週間	2～6週間	約3～5ヶ月	約10日間	6～11ヶ月
出発時期	第Ⅰ期：2～3月 第Ⅱ期：8～9月	留学先大学により 異なる	春学期：2～5月 秋学期：8～9月	夏季および 春季休暇中		9～10月	夏季および 春季休暇中	5～9月
語学条件	あり		なし		あり		なし	
単位	単位認定申請可 ^{*4}				履修登録対象 ^{*5}	単位認定申請可 ^{*4}	履修登録対象 ^{*5}	—
東洋大学留学 奨学金 (給付型)	あり			なし				
東洋大学海外留学 促進奨学金 (給付型)	グローバルリーダー型 トップ大学型	アクティブ型	チャレンジ型		アクティブ型	なし		

プログラムの内容等は変更になる場合があります。

^{*1} 学部留学…現地で正規課程の科目を履修及び修得することを目的とする留学

^{*2} 語学留学…海外の大学附属の語学学校で語学を集中的に学ぶ留学

^{*3} 1年……留学先機関によって学期制度や学期の日程が異なるため、トータルで1年間の留学期間を指す言葉として使用しています。

^{*4} 単位認定申請可…留学先大学等で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。

^{*5} 履修登録対象……該当する本学の開講科目を履修登録できます。

(2) 各種海外留学・研修プログラムの詳細

①交換留学

本学が学生交換協定を締結している協定校あるいは海外学生交換コンソーシアム（ISEP・UMAP等）に加盟する大学へ、1学期間または1年間留学するプログラムです。東洋大学を休学することなく留学できます。原則、留学先大学の授業料は免除となり、留学期間に応じて奨学金が給付されます。留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。

②認定留学

本学協定校の他、学位授与権のある大学へ1学期間または1年間留学するプログラムで、留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。国や地域は問いません。東洋大学を休学することなく留学できます。原則、留学先の授業料は自己負担となりますが、留学期間に応じて奨学金が給付されます。

大学への出願・入学手続きは原則各自で行うため、留学に先立って自ら十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが重要です。

③協定校語学留学

本学の海外協定校附属の語学学校へ、3ヶ月から6ヶ月間留学するプログラムです。語学力の向上を目的とし、語学を学びながら様々なアクティビティやホームステイ等を通じた異文化体験をします。原則、留学先の授業料は自己負担となりますが、条件を満たした場合、奨学金が給付されます。また、東洋大学を休学することなく留学できます。

④語学セミナー

夏季および春季休暇を利用した短期語学研修プログラムです。語学研修、アクティビティ、ホームステイ等を通じた語学力の向上と異文化理解を目的としています。

⑤海外インターンシップ・ボランティア

グローバル社会で活躍するために必要となる英語力・異文化理解力・社会人マナーなどの社会人基礎力を育成し、世界に羽ばたく学生を育てることを目的としたプログラムです。夏季および春季休暇を利用し、2～6週間研修を行います。語学力の向上に加え、各国の経済状況や文化風習の違いを“働く”という社会生活を通じて体験し、今後の学生生活とキャリア形成に生かすことができます。

⑥国連ユースボランティア (UNYV)・ワシントンセンター (TWC)

・国連ユースボランティア (UNYV)

国連ボランティア計画 (UNV) のコーディネートの下、開発途上国の国連事務所や政府機関でユースボランティアとして、約5ヶ月間働く長期インターンシップです。現地国連スタッフと共に広報活動やフィールドワーク等の業務に携わりながら、高度なキャリア意識やリーダーシップを養うプログラムです。

・ワシントンセンター (TWC)

アメリカの首都であるワシントン DC 周辺の公的機関、NPO、企業などで15週間の就労体験と夜間に行われる授業を通じ国際的感覚を身につけ、将来のグローバルリーダーを育てるプログラムです。

⑦ Diversity Voyage

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) が行う、夏季および春季休暇を利用した短期間の海外研修です。海外で現地学生等と英語でコミュニケーションを取りながら共創・協働することで、語学力のみならず「多様性適応力」を育みます。

⑧日本語パートナーズ

約半年～1年間、アジアの中学・高校などの日本語教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行うプログラムです。

○各プログラムの詳細は大学 HP を確認してください。

国際交流「海外留学を希望する方へ」

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/>



海外留学・研修プログラム向け給付型奨学金

東洋大学では、多くの学生が海外留学・研修プログラムに参加できるよう、充実した奨学金を用意しています (プログラムや語学スコアに応じ、7～300万円を給付)。

－東洋大学留学奨学金

－東洋大学海外留学促進奨学金

その他、民間団体などによる奨学金もあります。

各奨学金の要件や金額は変更になる可能性があります。

詳細は国際教育センターホームページで確認してください。(下)

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/scholarship/>



(3) 単位認定・履修登録について

①交換留学 ②認定留学 ③協定校語学留学

本学主催の中・長期留学プログラム（交換留学，認定留学，協定校語学留学）に参加した学生が留学先大学・大学院で修得した単位について，本学開講科目の単位として認定を申請することができます。単位の認定は，留学先における履修科目の内容および時間数が本学開講の対応科目と合致することが条件です。必ず留学出願前に学科教員およびグローバルコミュニケーションスペースA（8号館1階）で卒業までの履修計画について相談をしてください。なお，単位認定は，教授会の審議を経て決定します。また，中・長期留学プログラム（交換留学，認定留学，協定校語学留学）の参加に伴う，卒着条件に係る科目履修条件および卒業関係科目の履修条件を緩和する特別措置対応が用意されています。特別措置の適用条件などの詳細は学科により異なりますので，必ず留学出願前に学科教員及びグローバルコミュニケーションスペースA（8号館1階）で確認をしてください。

- [1] 留学先大学で授与された単位数にかかわらず，留学先大学で履修した科目の実質の授業時間数を考慮して単位認定を行います。
- [2] 単位認定の際には，留学先大学での授業時間数や授業内容がわかる資料が必要です。そのため，留学先大学で履修した科目のシラバス，使用したテキスト・ノート等の提出が必要です。
- [3] 単位認定の作業には時間がかかるため，留学から帰国後直ちにグローバルコミュニケーションスペースA（8号館1階）で単位認定について相談してください。

④語学セミナー

「語学セミナー」(英語・中国語・フランス語圏)に参加し，条件を満たすことにより，「英語と文化」「中国語と文化」「フランス語と文化」の単位認定を申請することができます。単位認定により付与される成績評価は，認定の評価「T (Transferの略)」となります。

単位認定を希望する学生は，国際教育センターから送付される「単位認定願」を，単位認定を希望する学期の正規履修登録期間に教学課窓口へ提出してください。単位認定の申請は，語学セミナー終了後4セメスタ以内は有効です。

⑤海外インターンシップ・ボランティア

本プログラムは，基盤教育科目「海外研修」「短期海外研修」「海外実習」「短期海外実習」の履修登録対象プログラムです。履修には事前の申請が必要ですので，申込後の案内にしたがって手続きを行ってください。

⑥国連ユースボランティア・ワシントンセンター

詳細はグローバルコミュニケーションスペースA（8号館1階）へお問い合わせください。履修には事前の申請が必要ですので，申込後の案内にしたがって手続きを行ってください。

⑦ Diversity Voyage

本プログラムは，基盤教育科目「短期海外研修」の履修登録対象プログラムです。履修には事前の申請が必要ですので，申込後の案内にしたがって手続きを行ってください。

⑧日本語パートナーズ

本プログラムは，単位認定の対象となりません。

◎海外留学・派遣プログラムについての問い合わせ先

国際部〔国際教育センター〕(白山キャンパス8号館1階)

E-mail : mlryugaku@toyo.jp TEL : 03-3945-8593

◎学籍・履修・単位についての問い合わせ先

グローバルコミュニケーションスペースA (川越キャンパス8号館1階)

3. 総合情報学部・海外研修プログラム ～カリフォルニア州立大学 20 日間～

総合情報学部では、英語運用能力と国際的視野の会得を目的とし、アメリカ「カリフォルニア州立大学」への海外研修プログラムを実施しています。英語や海外の文化を学ぶだけでなく、グローバルな視野を広げ、長期留学プログラムへの動機付けとしても有効です。

研修先・実施期間

- 時期：2月～3月（春季休暇中）の20日間
- 場所：カリフォルニア州立大学ベーカーズフィールド校（アメリカ・カリフォルニア州）
- 総合情報学部の専任教員がプログラムに同伴し、現地教職員と連携して安心安全を確保。

本研修ではカリフォルニアで、アメリカ人の生活や文化を体験し、英語でのコミュニケーション能力の向上を目指し、専門的知識の習得に関連した授業や見学も行います。研修期間中は現地家庭でのホームステイを体験するとともに、カリフォルニア州立大学の学生との交流体験も実施する予定です。

カリフォルニア州立大学ベーカーズフィールド校（CSUB）

カリフォルニア州立大学はカリフォルニア全土に23のキャンパスを持つ米国最大級の大学群。世界中からさまざまな留学生が集まり、集中英語プログラム、短期英語プログラムなど、日本人に対する語学研修において定評のある総合大学です。

その中でもベーカーズフィールド校はカリフォルニアの中央に位置し、ロサンゼルスから90分、ラスベガスやサンフランシスコまで3時間という好立地。ヨセミテやグランドキャニオンといった国立公園にも近く、カリフォルニアの主要都市・観光地へのアクセスが良い都市として注目されています。

研修費用（目安）

約460,000円（渡航費・受講料・宿泊費などを含む）

*本プログラムは「東洋大学海外留学促進奨学金（チャレンジ型）」の認定事業であり、参加者は英語スコアに応じた返還不要の奨学金が受給可能です。

受け取れる奨励金額とスコア

- ▶ TOEIC400～545点：7万円
- ▶ TOEIC550～665点：12万円
- ▶ TOEIC670～785点：22万円
- ▶ TOEIC790点以上～：30万円

募集説明会

例年4月～5月頃に説明会を実施します。説明会の日程は掲示等でお知らせします。
また、随時、7号館1階「SGUルーム」にて、質問や疑問にお答えします。

VI. 国際教育プログラムについて

1. 英語特別教育科目 LEAP プログラム

LEAP (Learning English for Academic Purposes) プログラムは将来海外留学を目指す学生や、英語力を高めたいと希望する学生を対象とした学術英語プログラムです。英語力のみならず、大学レベルの授業を英語で受けるのに対応できるだけの学習スキルの習得も目指します。LEAP の授業は英語で行われるため、内容を理解し、課題などをこなしていくために基礎的な英語力が必要となります。修得した単位は卒業単位として認められます。

LEAP は EAP A と EAP B の 2 つの科目に分かれています。各学期いずれかの科目を開講します。

A 科目 (週 1 日 2 コマ連続, 2 単位)・・・Listening と Speaking に特化した科目

B 科目 (週 1 日 2 コマ連続, 2 単位)・・・Reading と Writing に特化した科目

TOEFL ITP® 500 点程度以上を取得している場合は、白山キャンパスに通学できる事を条件に PSA を受講することができます。PSA は次の 3 科目 (それぞれ週 1 回・1 単位) から成ります。

Basic Academic Writing (BAW)・・・英語で論文を書くための基礎を学習

Academic Essay Writing (AEW)・・・BAW 修了生対象で、より高度な論文作成スキルを学習

College Study Skills (CSS)・・・留学してからの受講スキルを学習

<申込・お問合せ>

プログラムの詳細は ToyoNet-ACE 「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コース内、「語学学習 LEAP・ランゲージセンター・課外講座」を確認してください (春学期履修の案内は前年 11 月頃、秋学期履修の案内は 5～6 月頃配信予定)。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577

LEAP プログラムについての問合せ先

LEAP オフィス (白山キャンパス 8 号館 2 階)

Email : mleapoffice@toyo.jp

TEL : 03-3945-7341



2. ランゲージセンター 課外英語講座

ランゲージセンターでは、海外留学や英語力向上を目指す学生のサポートを行っています。全キャンパスにて英会話講座、各種テスト対策講座や英語によるライティング指導を実施していますので、ぜひ活用してください。

◆◆各種プログラム◆◆

<キャンパス内留学> Toyo Achieve English 英語講座

フィリピン人講師による会話を中心とした5キャンパスで学べる英語講座です。授業の空き時間を有効に使って毎日学べる少人数制のグループレッスンと、自分のレベルや希望に合った授業を受講できるマンツーマンレッスンを開講しています。また、キャンパスによってTOEIC® 講座や夏休み・春休み中の集中講座を開講するなど、年間を通じてプログラムを提供しています。

課外英語資格試験対策講座

春学期、夏休み及び秋学期に、TOEFL®・IELTS™・TOEIC® のスコア向上を目的とした課外英語資格試験対策講座を実施しています。

ランゲージセンターライティング指導講座

①コンファレンスライティング (Conference Writing)

2週間に一度、決められたスケジュールで受講する1回30分、全6回のライティング個別指導プログラムです。カリキュラムに則り英語論文を書くための基礎的な知識とライティングスキルを段階的に学びます。

②スペシャルアカデミックライティング (Special Academic Writing)

2週間に一度、決められたスケジュールで受講する1回30分、全6回のライティング個別指導プログラムです。1学期完結型で、各種英文ライティングの基礎を学びます。

③ライティングテスト対策 (Prep for Writing Tests)

2週間に一度、決められたスケジュールで受講する1回30分、全6回のライティング個別指導プログラムです。IELTS™ や TOEFL iBT® などの英語資格試験のライティングパートに特化してスコアアップを目指します。

④ライティング相談 (Writing Consulting)

主に英文ライティングに関するアドバイスを30分間個別で受けることができるプログラムです。海外プログラムへの申込書、英文履歴書、英語での卒業論文・要旨作成等に利用可能です。

⑤特別講座 (Special Programs)

交換留学、海外インターンシップなど特定のプログラムの準備対策講座を開講しています。プログラム詳細については開講時にお知らせします。

講座内容・募集の詳細については ToyoNet-ACE 「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コース内、「語学学習 LEAP・ランゲージセンター・課外講座」を確認してください。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577

ランゲージセンター 課外英語講座についての問合せ先

国際部 [ランゲージセンター] (白山キャンパス 8号館 1階)

Email : ml_lc_global@toyo.jp

TEL : 03-3945-8172



3. 外国語資格試験

英語資格試験

東洋大学生は、団体受験制度を利用して各種英語資格試験を受験することができます。多くの試験では大学が受験料を一部補助したり、団体受験制度により割引価格が適用されています。

東洋大学で団体受験できる試験一覧と概要

試験名	概要	実施時期	申込
TOEFL ITP®	英語を母語としない人々のための国際基準の英語能力試験です。英語圏の大学・大学院への留学を目指す人が多く受験しています。(ペーパー形式)	4月, 6月, 7月, 9月, 10月, 12月, 1月	東洋大学生協 ホームページ
TOEFL iBT®	海外留学や研修のために英語力を証明する必要がある人が受験するTOEFL®の公式テストです。(コンピューター形式)	7～9月 12～1月	各キャンパス窓口
IELTS™	海外留学や研修のために英語力を証明する必要がある人が受験するテストです。特に、イギリス、オーストラリア、カナダなどへの留学希望者に最適なテストです。(ペーパー形式)	6月, 9月, 10月, 12月, 2月	各キャンパス窓口
TOEIC® L&R (IP)	英語によるコミュニケーション能力(聞く・読む)を、日常生活からビジネスシーンまで幅広く測定するテストで、就職活動において多く利用されています。(ペーパー形式)	5月, 6月, 7月, 9月, 12月	東洋大学生協 ホームページ
TOEIC® S&W (IP)	英語によるコミュニケーション能力(話す・書く)を測定するテストです。(コンピューター形式)	7月, 1月	各キャンパス窓口

テストの日程・受験料等は変更になる場合があります。最新情報は大学HP等を確認してください。

その他の語学資格試験

本学の学生は、下記の語学試験を公開テストで受験した場合、大学から受験料の補助を受けることができます。補助の対象となる級・申請方法・時期等については、ToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS(国際交流情報)」を確認してください。

<対象語学試験>

実用英語技能検定試験, ドイツ語技能検定試験, ゲーテドイツ語検定試験, 実用フランス語技能検定試験, DELF/DALF, フランス語能力テスト(TCF), 中国語検定試験, HSK(中国語標準検定), ハンデル能力検定試験, 韓国語能力試験(TOPIK), スペイン語検定(DELE), スペイン語技能検定

Ⅶ. 学籍および各種証明書について

1. 学籍（学籍異動に関する手続き）

学 籍

入学の手続きを完了し、学生証の交付を受けた学生は、本学の在籍者としての身分を有することになります。入学後卒業までの間、原則として、学期初めの指定された期間内に所定の学費を納入しない場合、本学の在籍者としての身分を失うことになります（除籍の項を参照してください）。

○在学年数

引き続き在学できる最長年限は8年です。ただし、休学期間は在学年数に算入されません。

○学籍簿

入学時に、教学課に提出した学籍簿には、本人が特定でき、かつ学生としての身分が明確になるような内容が記載されています。これは、学生の身分を証明する基礎となる大変重要なものであり、永久かつ厳重に保管されるものです。

○オンライン入学手続

入学時に、オンライン入学手続により入力された学生の個人情報、個人情報保護法に基づき管理され、事務処理等に使用されています。入力事項に変更が生じた場合は、ToyoNet-Gを利用して修正するか、または所定用紙に記入し、必ず教学課へ届け出てください。これを怠ると大学からの重要なお知らせが届かない等の不利益を被る場合があります。

なお、届け出る必要のある変更事項は、下の表のとおりです。

項 目	受 付	備 考
本人氏名変更（改姓・改名）	教学課窓口	戸籍抄本が必要
本人住所変更	教学課窓口もしくは ToyoNet-G	外国人留学生はWeb上で変更した後「住民票・在留カード（コピー）」を教学課窓口へ提出
通学区間変更（最寄駅）	教学課窓口もしくは ToyoNet-G	学生証を教学課に持参すること
保証人変更	教学課窓口	保証人の署名捺印が必要
緊急時連絡人変更	教学課窓口	
保証人・緊急時連絡人住所変更	教学課窓口もしくは ToyoNet-G	
保証人勤務先変更	教学課窓口もしくは ToyoNet-G	
本籍地変更	教学課窓口	住民票（本籍地の記載のあるもの）又は戸籍抄本が必要

※電話番号のみ変更した場合もToyoNet-Gで変更してください。

セメスター制

総合情報学部では1年を2学期に分けたセメスター制を採用しています。学期ごとに休学等の学籍異動が可能です。クォーターごとの学籍異動はできません。

（春学期：4月1日～9月30日）
（秋学期：10月1日～3月31日）

※ただし、春学期の終了日及び秋学期の開始日は年度によって異なりますので、『学生生活ハンドブック』で確認してください。

学生証

学生証は本学学生としての身分を証明するものです。常に携帯し、次のような場合これを呈示しなければなりません。学生証は発行から4年間使用します。

- (1)本学教職員からの請求があった場合
- (2)試験を受ける場合

(3)各種証明書や学生旅客運賃割引証明書（学割）等の交付を受ける場合

(4)通学定期乗車券や学生割引乗車券を購入する際と、それを利用して乗車船し係員の請求があった場合など
※他人に貸与または譲渡することはできません。

※有効期間は4月1日から次年度の4月15日までです。

※裏面に通学定期乗車券発行用のシールが貼付されていないものは無効です。

○学生証の更新手続

学生証は、毎年4月初旬の進級手続期間内に必ず当該年度の学費を納入の上、学生証の更新手続を受けなければなりません。

○学生証の返還

卒業または退学する場合や除籍された場合は、必ず学生証を返還しなければなりません。

○学生証の再発行

学生証を紛失もしくは破損・汚損した場合は、直ちに届け出、次の手続きをして再発行を受けなければなりません。

紛失した場合…教学課窓口で再発行の手続きをしてください。

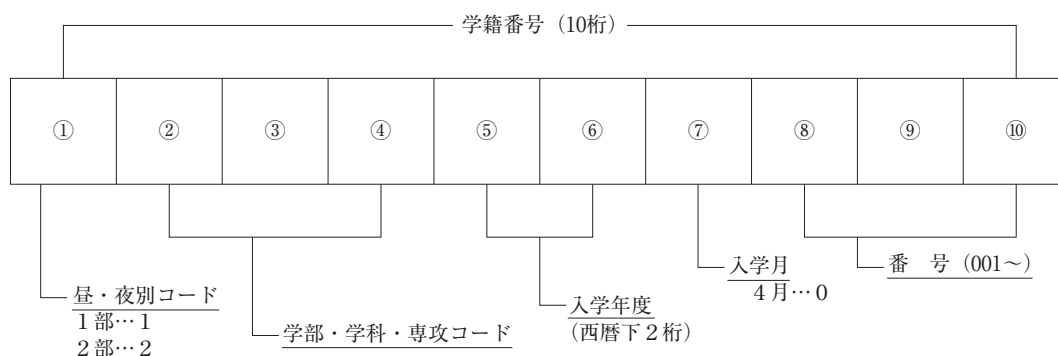
汚損・破損した場合…汚損・破損した学生証を教学課窓口を持参し、再発行の手続きをしてください。

※いずれの場合も、手数料（2,000円）が必要です。手続後1週間後の発行となります。

学籍番号（学生証に記載されている番号）

入学の手続きを完了した学生には、学籍番号が与えられ学生証に記載されます。この学籍番号は、転部転科や再入学、その他特別の理由がない限り卒業まで変わることはありません。

履修登録、試験の答案用紙、各種の届出、証明書の申請等で必要となりますので、正確に記憶しておいてください。



(例) 総合情報学部総合情報学科に2019年度4月入学した321番の学生の学籍番号は『1B10190321』番となります。

進 級

休学者が復学した場合などの特別な事情がない限り、原則として上級へ進級します。

4年原級

卒業できない場合は4年次に原級となり、以後在学最長年限（8年）まで4年生となります。

卒業できなかった学生は、教学課から郵送される通知にしたがって原級手続を行い、当該年度の正規4年生と同額の学費を納入しなければなりません。原級に関する手続を怠ると除籍になります。

なお、総合情報学部についてはセメスター制を実施しておりますので、セメスター毎（半年毎）に手続が必要となります。

休学

病気、家庭の事情などの理由で、3ヵ月以上修学することができない場合は、大学の許可を得て休学することができます。

○休学の期間

休学の届け出日に関わらず、休学の期間は、下記のとおりです。

4月入学生 第1期 4月1日～9月30日
第2期 10月1日～3月31日

- ・休学の期間が終了した場合は、次学期の開始日付で復学することになります。
- ・原則として、2セメスターを超える休学はできません。復学できない場合は、教学課へ相談してください。
- ・休学の期間は、通算して8学期を超えることはできません。
- ・休学をした学期の履修登録は全て無効となります。

○休学の手続

- ・休学を希望する場合は、許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署の上、学生証を添えて教学課へ提出してください。担当教員による面談を行います。なお、病気等による場合は医師の診断書が必要です。
- ・休学が許可された場合は、休学許可書を保証人宛に郵送します。
- ・休学の手続き期限は、その年度の春学期6月30日、秋学期12月31日までです。
- ・手続きは原則として学生本人が行ってください。ただし、やむを得ない事情がある場合は、教学課へ相談してください。
- ・本学を休学して外国の大学等に留学した場合、留学先で修得した単位を本学の単位として認定することができます。休学手続きを行う前に、国際教育センターへ留学機関等に関する届出を行う必要があります。手続き詳細については、本学ホームページを参照してください。

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/kyugaku-ryugaku/>

○休学与学費

- ・期の初めの休学の場合、その期の授業料・実験実習料は徴収しません(一般施設設備資金の半額を徴収)。既に、納入されている場合は返金します。
- ・期の途中で休学届が出された場合、その期の授業料・一般施設設備資金・実験実習料は徴収します。

休学者の復学

○復学の手続

- ・休学者には、復学手続の案内および必要書類を、保証人宛に郵送します。(留学生には本人宛)
- ・復学する場合は、手続の案内に従って、指定された期間内に許可願用紙の必要事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添えて教学課へ提出しなければなりません。
- ・復学、休学、退学いずれかの手続を取らない学生は除籍となります。

○復学与学費

休学者が復学する場合の学費は、入学年次と同額になります。

○復学者の履修方法

- ・休学期間中の履修登録科目はすべて無効となります。
- ・復学した学生は、復学する学年以下に配当されている科目について履修することができます。

※なお、詳細な履修方法については、復学の手続き終了後、教学課で履修指導を受けてください。

退 学（依頼による退学）

事情により本学での修学継続が困難な場合は、大学の許可を得て、退学することができます。

○退学の手続

- ・事情により退学を希望する場合には、保証人と十分相談の上で、所定の許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署の上、学生証を添えて教学課へ提出してください。
- ・退学が許可された場合は、退学許可書を保証人宛に郵送します。

○退学と学費

退学する場合は、学費は原則として全納していなければなりません。

退 学（懲戒による退学）

本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為があったものは、大学の決定を受けて懲戒となります。この場合、学生証を返還しなければなりません。なお、懲戒退学に該当する行為は学則第57条に定められています。

除 籍

指定された期間内に学費を納入しない学生・在学年限を超えた学生・休学期間を超えた学生・新入生で指定された期間内に履修登録を行わなかった学生等は、学則第38条により除籍となります。除籍は、学籍の抹消として処理されます。この場合、保証人宛に除籍通知書を郵送します。また、学生証を返還しなければなりません。除籍者より在籍期間証明書の申請があった場合には「除籍」を明記した証明書を発行します。

再 入 学

○再入学の手続

- ・退学および除籍となった学生が再入学を希望する場合は、1月末（7月末）までに許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、教学課に提出してください。
- ・再入学が、大学の決定を受けて許可された場合は、次学期の開始日付で再入学することができます。

※ただし、入学してから退学（除籍）までの期間を含めて、在学年数が通算8年以内に卒業が見込まれる場合でなければ再入学は認められません。

○再入学の納付金

- ・再入学する場合の納付金は、再入学する学年次の額を適用します。入学金は、再入学する年度の新生生の額の半額となります。

○再入学者の履修方法

- ・再入学する学年は、原則として退学（除籍）時の学年になりますが、単位修得状況によっては学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表が入学年度と変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表が適用される場合があります。

※なお、詳細な履修方法については、再入学の手続き終了後、教学課で履修指導を受けてください。

転部・転科

本学内で転部・転科を希望する学生に対して試験を行います。

第1部（昼）の学生の場合は、第1部（昼）内の他学部・他学科への転部・転科、および第2部（夜）への転部・転科となります。

また、転部・転科の対象は、2年及び3年への進級時となります。学部・学科によって異なりますので試験要項でよく確認してください。

○転部・転科試験の手続

- ・試験要項は秋学期以降に、教学課窓口にて配布します。受験希望者は試験要項にしたがって手続きをとり、12月に実施される試験を受けてください。
- ・合格発表は、3月下旬に行います。

※転部・転科試験の手続きに関しては、掲示で発表しますので注意してください。なお、詳細は、秋学期開始後に教学課へ相談してください。

○転部・転科と学費

学費は転部・転科先の学年の学生と同額です。ただし、入学金については、転部・転科先と比べて差額がある場合は、不足分を納入することになります。

科目等履修生

卒業後特定の科目について学修しようとする学生には、科目等履修生として、科目履修を許可する制度があります（本学在学中は、科目等履修生になることはできません）。

○科目等履修生は、検定料として20,000円、登録料として10,000円、履修料として半期科目1科目につき20,000円が必要となります。

○原則として実験・実習および実技については履修できません。

○次年度科目等履修生募集要項については、本学ホームページからダウンロードすることができます。

学位授与機構での学位の取得

東洋大学を卒業しなくとも、単位の修得状況によっては「学位授与機構」で学位（学士）の取得が可能です。教学課にご相談ください。

2. 各種証明書および実習料一覧

各種証明書 (発行必要期間は窓口で指示)

教学課では、下の表のような証明書を発行しています。

①～④——学生証と4桁の暗証番号により東洋大学証明書発行機で発行します。

⑤～⑭——窓口発行となります。

種 類	手数料 (円)	発行可能 学年	備 考
①在学証明書	100	1～4年生	} 白山・朝霞・川越・板倉・赤羽台いずれの キャンパスの発行機でも発行しています。
②卒業見込証明書	100	4年生	
③成績証明書 ※注	100	1～4年生	
④健康診断証明書	100	1～4年生	
⑤卒業証明書	200		
⑥成績証明書 (卒業生)	200		
⑦学生証再発行	2,000		
⑧教員免許状取得見込証明書	100		
⑨単位修得証明書	300		
⑩人物証明書	200		本学書式の場合
⑪在籍証明書 (休学者)	300		
⑫英文成績証明書	1,000		
⑬英文卒業 (見込)・在学証明書	500		
⑭その他の証明書	300		

◎学生証再発行についての詳しい手続き方法は1. 学籍 (学籍異動に関する手続き)「学生証」の項を参照してください。

◎人物証明書発行については、教学課所定の用紙に、演習・卒論担当教員との面接により記入してもらいます。その後、教学課へ持参し、証明書作成手続きをしてください。

※注 1年生については第2 Semester以降の発行となります。

実習料他

大学では、必要に応じ下の表のような実習料などを受付けます。実習料を納入する場合には、教学課窓口の指示に従ってください。

種 類	金 額 (円)	備 考
教職課程登録料	30,000	
教育実習料	3週間実習 15,000	4年生
	2週間実習 10,000	
教員免許状申請料	1教科 3,600	4年生
転部・転科試験受験料	10,000	1～2年生
卒業再試験受験料	1科目 5,000	4年生

3. 学則（学籍に関する事項の抜粋）

2019年4月1日現在

最新の学則は大学ホームページをご確認ください

第3章 修学等

第1節 修業年限

（在学年限）

第20条 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第4章 入学、退学、休学及び除籍等

第1節 入学、留学等

（入学の時期）

第24条 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

（入学資格）

第25条 学部第1年次に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- 三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 文部科学大臣が指定した者
- 六 大学入学資格検定（平成17年1月31日規程廃止）に合格した者
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- 八 その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

（入学の志願・選考）

第26条 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表（4）の1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続き）

第27条 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第28条 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第29条 入学手続きを終えた者には、学生証を交付する。

（編入学）

第30条 次の各号の一に該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考の上、編入学を許可することができる。

- 一 短期大学を卒業した者
- 二 大学を卒業した者
- 三 高等専門学校を卒業した者
- 四 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

2 編入学に関する規程は、別に定める。

（転入学）

第31条 他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、転入学を認めることができる。

2 転入学に関する規程は、別に定める。

（転部・転科）

第32条 学生が学部の他の部へ、又は他の学部・学科へ転部・転科を願い出たときは、選考の上、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

（留学）

第33条 学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

（二重学籍の禁止）

第34条 学生は、他の学部・学科と又は他の大学

と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 学生が引き続き3カ月以上修学できないときは、許可を得て、その学期を休学することができる。

2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、2学期を超える期間の休学を許可することができる。ただし、休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。

3 休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(退学)

第36条 退学しようとする者は、その理由を明確にして願い出て、許可を受けなければならない。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(転学)

第37条 学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(除籍)

第38条 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

- 一 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者
 - 二 第20条に定める在学年数を超えた者
 - 三 第35条第2項に定める休学期間を超えた者
 - 四 新入生で指定された期限までに履修届を提出しないこと、その他本学において修学の意味がないと認められる者
 - 五 外国人留学生で出入国管理及び難民認定法に定める「留学」の在留資格の入国査証の発給が拒否された者
- 2 学生は、除籍されることにより、本学則及びその施行のために定められた規則に基づいて有する一切の権利を失う。
- 3 第1項の規定（第2号及び第3号に掲げる者を除く。）により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第8章 賞罰及び奨学

(懲戒)

第57条 学長は、本学の規則に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

2 退学処分は、次の各号の一に該当する者以外には、これを行うことはできない。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- 三 正当な理由なくして出席常でない者
- 四 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

東洋大学総合情報学部規程

2019年4月1日現在

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学学則（以下「学則」という。）に基づき、総合情報学部の教育研究に関し必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 総合情報学部は、学則第4条の2に基づき、学部及び各学科又は専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を、別表第1のとおり定める。

(卒業の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第3条 総合情報学部は、学則第4条の3に基づき、学部及び各学科又は専攻の卒業の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を、別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 総合情報学部は、学則第39条第1項第1号から第5号に基づき、各学科又は専攻の教育課程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法を、別表第3のとおり定める。

(卒業に必要な単位等)

第5条 総合情報学部は、学則第52条に基づき、各学科又は専攻の卒業に必要な単位等を、別表第4のとおり定める。

2 総合情報学部は、卒業関係科目を履修するための条件を、別表第5のとおり定める。

(履修上限単位数)

第6条 総合情報学部は、学則第42条第3項に基づき、各学科又は専攻の卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を24単位とする。

(教育職員その他資格)

第7条 学則第45条に基づき、総合情報学部で取得できる資格は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 教育職員となる資格

2 前項第1号の資格において、総合情報学部で取得することができる教育職員免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

学科及び専攻等	免許状の種類及び教科
	高等学校教諭1種免許状
総合情報学科	情報

(資格取得のための授業科目及び単位数)

第8条 学則第45条第2項に基づき、総合情報学部で資格を取得しようとする者は、次の各号に定める所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(1) 教育職員の資格 別表第6に掲げる授業科目の単位を修得

(改正)

第9条 この規程の改正は、学長が総合情報学部教授会の意見を聴き、学部長会議での連絡調整を経て行う。

附 則 (略)

2019年度 東洋大学総合情報学部履修要覧

2019年 4月 発行

編集
発行 **東洋大学総合情報学部**

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100